

平成 30 年度  
事業実績報告書



第 35 回岩手県海の子絵画展受賞作品から

令和 2 年 3 月

公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金

# 目 次

○ 岩手県漁業担い手育成基金の概要	1
Ⅰ 組織	2
Ⅱ 平成 30 年度事業実施状況	3
Ⅲ 実施結果報告	5
1 漁業担い手確保対策事業	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	5
(2) 水産高校等連携育成事業	17
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	27
2 漁業担い手確保対策事業	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	29
3 青年等漁業者資質向上活動支援事業	
(1) 研究グループ等活動事業	
ア 研究実践活動	31
イ 研修活動	39
(2) 青年等交流活動事業	
ア 情報交換会の開催等	45
イ 地区活動実績発表大会	52
(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）	54
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業（ゼロ予算）	58
5 漁業人材育成総合支援事業（国庫）	59
Ⅳ 助成事業規程集（令和 2 年 3 月末現在）	
公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程	61
公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則	63
公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金助成事業審査会設置要領	70

## ○ 岩手県漁業担い手育成基金の概要

### 1 目的

本基金は、漁業生産を担う漁業者の確保及び育成を図るため、漁業を志向する青年等の就業促進及び青少年等の漁業に対する理解の向上や青年等漁業者の漁業経営及び漁家生活等の改善向上を図るための自主的活動等に対して支援を行い、もって本県漁業・漁村の健全な発展に寄与することを目的とする。

### 2 事業の内容

前記の目的を達成するため、次の事業を行います。

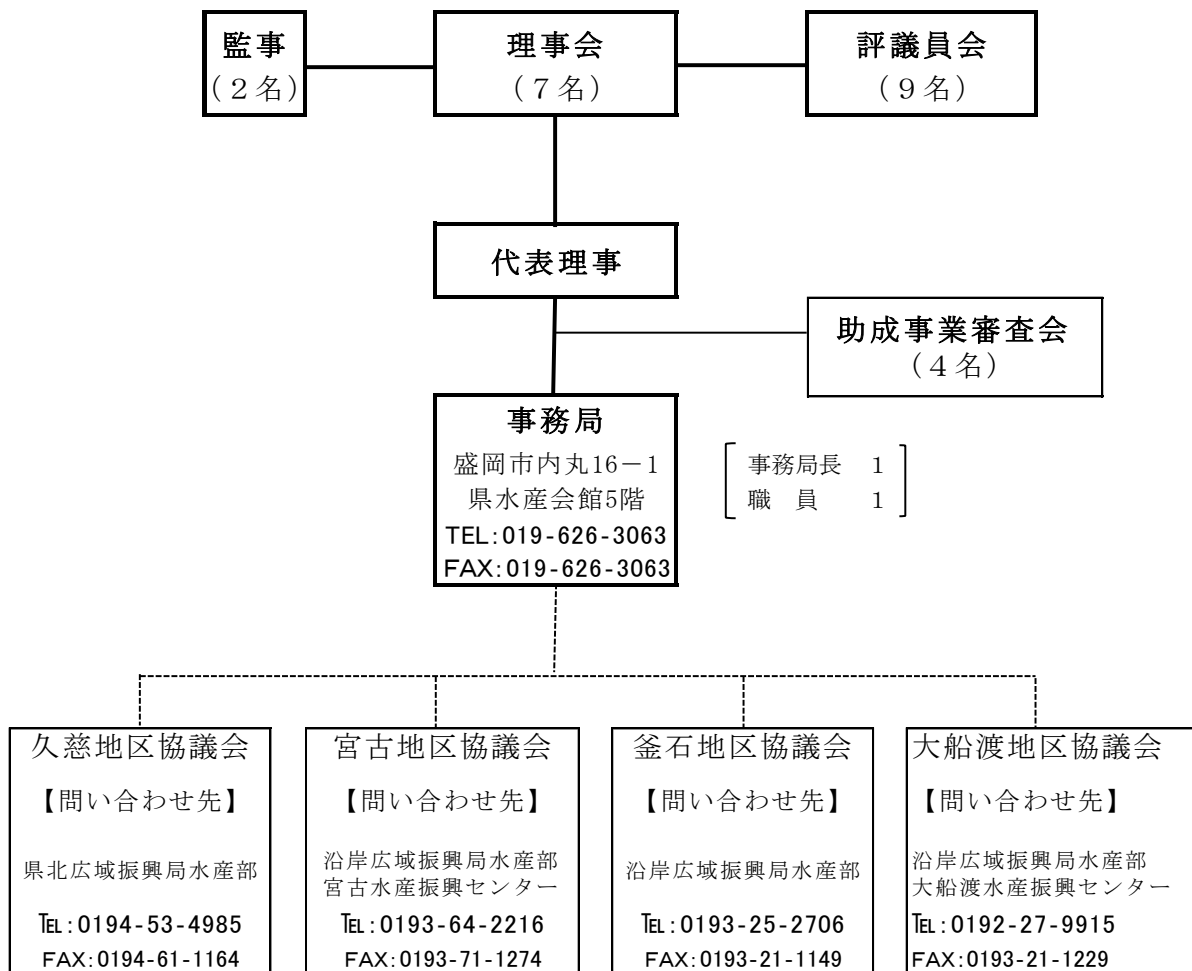
- (1) 漁業担い手の確保に関する支援事業
- (2) 新規漁業就業者等の育成に関する支援事業
- (3) 青年等漁業者の経営等の改善向上に関する組織活動支援事業
- (4) 地区における漁業担い手対策を総合的に推進するための協議会活動支援事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 3 基金の概要

- (1) 名 称 公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金
- (2) 設立年月日 平成3年10月1日（平成24年4月1日から公益法人に移行）
- (3) 所在地 盛岡市内丸16番1号（岩手県水産会館内）
- (4) 設立根拠法 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第4条
- (5) 代表者 岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長 大井誠治
- (6) 基本財産 510,000千円
- (7) 出捐状況

区 分	出捐総額 (百万円)	比率 (%)	摘 要
県	250	49	
市 町 村	75	15	沿岸12市町村
漁業団体	175	34	27漁協、連合会等
そ の 他	10	2	海づくり大会寄付金
計	510	100	

# 1 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金の組織



## 役員及び評議員(H31.3.31現在)

### 役員

代表理事	大井誠治	県漁連会長
理事	伊藤克宏	県農林水産部技監
理事	藤島純悦	県漁業共済組合専務
理事	工藤大輔	県議会議員
理事	横山英信	岩手大学教授
理事	小野寺恵	メグミプランニング代表
理事	五日市周三	県内水面漁連専務
監事	佐藤 修	県町村会事務局長
監事	盛合久雄	県信漁連常勤監事

### 評議員

評議員	岩脇洋一	県信漁連会長
評議員	門坂繁樹	JF共水連岩手支店長
評議員	佐藤信逸	山田町長
評議員	藤田 敦	県漁業士会副会長
評議員	平子昌彦	Jf漁青連会長
評議員	崎山恵美子	県漁協女性部連絡協議会委員
評議員	金澤広利	県産業教育振興会事務局長
評議員	五日市知香	パイロットフィッシュ代表
評議員	大森正明	(株)エコニクス技術顧問

## Ⅱ 平成30年度事業実施状況

### 1 概況

東日本大震災から8年が経過し、本県漁業の復旧状況は、漁業生産の基盤となる漁船や養殖施設は復旧し、漁港施設等についてもほぼ復旧しています。また、生産面では、海藻類の養殖に加え、貝類養殖についても出荷は震災前に戻りつつありますが、海水温の上昇、貝毒プランクトンの発生長期化等新たな問題が出てきています。

また、漁家の生活については、用地造成が完了し、復興住宅の建設、住宅の高台移転等進んできています。

生産体制については、「がんばる養殖」が終了し、グループ生産から個人生産への移行が進んでいますが、特に高齢者の養殖からの離脱による生産量の減少が心配されるところです。個人経営体数については、平成25年度（第13次）漁業センサスによると前回の5,204に比べ3,278と63%と大幅に減少しており、担い手の確保が急務となっています。

このため、平成30年度事業運営においては、ほぼ震災以前に戻り、担い手の確保、育成、若青年漁業者の活動支援を中心に助成事業を展開してきましたが、一部で中止した事業等もあり、計画を下回った事業実績となりました。

また、平成30年度から、国の漁業人材育成総合支援事業の事業実施機関となり、全国漁業就業者支援フェアに県内漁業者を取りまとめて出展するとともに、長期研修支援事業を通じた研修指導者への指導謝金の支払い等の事務を実施しました。

さらに、各種就業フェアに参加して、平成31年度から開始される「いわて水産アカデミー」研修希望者の募集を県と連携して行うとともに、就業相談において本県漁業の理解促進のため、動画や写真資料を使い説明を行いました。

単位：円

事業別	予算額(円)	決算額(円)	達成率(%)
基金助成事業	3,971,478	3,757,416	94.6
漁業人材育成総合支援事業（国庫）	6,245,000	6,116,040	97.9
計	10,216,478	9,873,456	96.6

### 2 事業の実施状況

#### (1) 漁業担い手確保対策事業

##### ① 小中学生漁業体験・学習事業

地域の小中学生を対象とした漁業体験・学習活動に対して助成した。

12件（参加小中学生394名） 助成額 570,125円

##### ② 水産高校等連携育成事業

水産高校等の生徒の技術向上を目的とした現場実習活動等に対して助成した。

3件（参加人数115名） 助成額 557,000円

##### ③ 漁業志向青年等体験学習事業

漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験学習の開催を支援した。

1件（参加人数11名） 助成額 163,044円

## (2) 漁業担い手育成対策事業

### ① 新規漁業就業者技術研修事業

新規漁業就業者が自立経営を目指して地元先達漁家の指導により基礎的知識・技術を習得するための研修を支援した。

1 件（研修受講者 1 名） 助成額 296,000 円

## (3) 青年等漁業者組織活動支援事業

### (ア) 研究グループ等活動事業

#### ① 研究実践活動

研究グループ等の研究実践活動動経費に対して助成した。

4 件（参加人数 33 名） 助成額 596,500 円

#### ② 研修活動

研究グループ等の研修活動経費に対して助成した。

3 件（参加人数 18 名） 助成額 425,600 円

### (イ) 青年等交流活動事業

#### ① 情報交換会の開催等

全国青年・女性漁業者交流大会への参加や、未婚漁業者等交流会の開催に対して助成した。

6 件（参加人数 50 名） 助成額 822,553 円

#### ② 地区活動実績発表大会

J F 漁青連支部が主催する地区活動実績発表大会の開催に対して助成した。

1 件（参加人数 52 名） 助成額 70,000 円

### (ウ) 地域リーダー研修事業

県漁業士会・支部が主催する研修会、交流会の開催に対して助成した。

3 件（参加人数 44 名） 助成額 256,594 円




## (4) 漁業人材育成総合支援事業



国庫補助事業の漁業人材育成総合支援事業（長期研修支援事業）の実施機関として本県漁業担い手の維持確保に努めた。 事業費 6,116,040 円

事業区分			
	参加機関数	参加者数人	事業費（円）
1 漁業就業促進情報提供事業	4	6	189,035
2 長期研修支援事業	受入機関数	研修生（人）	事業費（円）
	4	6	5,601,249
事務費等			325,756
合 計			6,116,040


### Ⅲ 実施結果報告



#### 1 (1) 小中学生漁業体験・学習事業

活動名	末崎中学校わかめ養殖体験事業										
実施主体	大船渡市漁業協同組合										
総事業費	84,810 円	うち助成額	50,000 円								
目的	総合的な学習の時間（産土タイム）わかめ種巻き作業を通じて、地域産業の大切さ及び漁業後継者育成の環境整備を目指す。										
活動内容	<p>わかめ養殖施設に種苗を巻き付け、養殖わかめ生産物の収穫をして、生徒自身で商品化し販売まで手掛ける。</p> <p>○種糸巻き作業体験</p> <p>【月 日】 平成 30 年 11 月 28 日（木）</p> <p>【場 所】 大船渡市末崎町 女島沖合海上</p> <p>【参加者】 中学生 23 名、その他 5 名 計 28 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>										
備考	<p>・指導者 尾崎眞末崎中学校産土タイムスーパーバイザー 南浜・北浜わかめ養殖組合役員 大船渡市漁協末崎支所役員</p> <p>・種巻き作業以降の体験活動（助成対象外の活動）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">間引き作業</td> <td>平成 31 年 1 月 30 日</td> </tr> <tr> <td>刈取り・ボイル塩蔵作業</td> <td>平成 31 年 2 月 27 日</td> </tr> <tr> <td>芯抜き作業</td> <td>令和元年 6 月 21 日</td> </tr> <tr> <td>塩蔵ワカメ販売体験</td> <td>令和元年 10 月 3 日</td> </tr> </table> <div style="text-align: right;">  </div>			間引き作業	平成 31 年 1 月 30 日	刈取り・ボイル塩蔵作業	平成 31 年 2 月 27 日	芯抜き作業	令和元年 6 月 21 日	塩蔵ワカメ販売体験	令和元年 10 月 3 日
間引き作業	平成 31 年 1 月 30 日										
刈取り・ボイル塩蔵作業	平成 31 年 2 月 27 日										
芯抜き作業	令和元年 6 月 21 日										
塩蔵ワカメ販売体験	令和元年 10 月 3 日										



活動名	大船渡市綾里地区体験学習・少年水産教室		
実施主体 (協力機関)	綾里漁業協同組合		
総事業費	61,155 円	うち助成額	50,000 円
目的	漁業に対する理解と関心を高めるため、綾里中学校 1, 2 年生を対象に漁業体験学習を実施する。		
活動内容	<p>○洋上見学 (定値の網起こし体験、縄結び実技)、講話  <b>【月 日】</b> 平成 30 年 11 月 1 日 (木)  <b>【場 所】</b> 綾里漁協会議室 綾里小石浜漁港・清水輪定置漁場  <b>【参加者】</b> 中学生 25 名、          その他 10 名 計 35 名</p>  <p>○新巻づくり体験  <b>【月 日】</b> 平成 30 年 11 月 6 日 (火)、13 日 (火)  <b>【場 所】</b> 綾里漁協荷捌き施設  <b>【参加者】</b> 中学生 14 名、          その他 10 名 計 24 名</p>  		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者            清水輪定置従業員            綾里漁協青壮年部            指導漁業士、漁協職員</li> </ul>		





活動名	平成30年度 吉浜中学校漁業体験学習		
実施主体 (協力機関)	吉浜漁業協同組合		
総事業費	37,970 円	うち助成額	37,970 円
目的	基幹産業である漁業への理解と憧れを形成するため、吉浜中学校生徒を対象に漁業体験学習を実施する。		
活動内容	<p>○ホタテ貝の耳吊り作業  【月 日】 平成30年6月20日(水)  【場 所】 根白漁港荷捌き施設  【参加者】 中学生35名、その他10名 計45名</p>  		
備考	<p>・指導者  ホタテ養殖業者</p> 		

活動名	岩手県立高田高等学校一日体験入学		
実施主体 (協力機関)	岩手県立高田高等学校		
総事業費	52,266 円	うち助成額	50,000 円
目的	<p>本校生徒が中学生に小型船舶の操縦や水産生物観察及び水産食品の製造を指導、説明することをおして、自身の水産業に対する理解と自覚を一層深める事を主眼とし、併せて中学生に魅力を伝えることにより、海洋システム科への志願者の確保と増加を図る。</p>		
活動内容	<p>○中学生一日体験入学  【月 日】 平成30年7月31日  【場 所】 本校食品実習場及び大船渡湾内  【参加者】 中学生20名、その他0名 計20名  ・海洋科学コース：C型教習艇を使った本校生徒の指導による操船実習及び水産生物観察</p>  <p>・食品科学コース：本校生徒の指導による揚げかまぼこ製造実習及びアミエビパン製造実習</p> 		
備考	<p>・指導者  海洋システム科2・3年生 26名  海洋システム科職員 8名</p>		



活動名	平田地区少年水産教室		
実施主体 (協力機関)	釜石湾漁業協同組合		
総事業費	100,000 円	うち助成額	50,000 円
目的	釜石市立平田小学校 5 年生 40 名を対象として、釜石地域の基幹漁業である鮭漁業にかかる学習を実施して、水産業への興味の醸成及び理解を図るものである。		
活動内容	<p>○サケふ化放流事業及び定置網漁業等の説明（講義：漁協職員等）  【月 日】 平成 30 年 12 月 4 日  【場 所】 釜石市平田漁港  【参加者】 中学生 27 名、その他 13 名 計 40 名</p> <p>○サケの塩蔵加工の実施①（えら、内臓除去、洗浄、塩蔵）  【月 日】 平成 30 年 12 月 4 日  【場 所】 釜石市平田漁港  【参加者】 中学生 27 名、その他 13 名 計 40 名</p> <p>○サケの塩蔵加工の実施②（洗浄、乾燥）  【月 日】 平成 30 年 12 月 11 日  【場 所】 釜石市平田漁港  【参加者】 中学生 27 名、その他 13 名 計 40 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者 釜石湾漁業協同組合職員 2 名、組合員 2 名、員外 1 名 沿岸広域局水産部職員</li> <li>・ 新巻さけ完成品の一部は、地元特養施設へ寄付をする。</li> </ul>		

活動名	ワカメ養殖漁業体験実習（吉里吉里学園中学部 平成30年度ワカメ学習）		
実施主体 (協力機関)	新おおつち漁業協同組合		
総事業費	109,204 円（税抜き）	うち助成額	50,000 円
目的	漁業体験をとおして、地域水産業への興味及び理解を図る。		
活動内容	<p>○養殖桁へのわかめ種苗の巻込み作業  【月 日】 平成30年11月14日  【場 所】 船越湾 ワカメ養殖漁場  【参加者】 吉里吉里学園中学部28名、その他6名 計34名</p> <p>○わかめ養殖勉強会  【月 日】 平成31年2月17日  【場 所】 吉里吉里学園中等部  【参加者】 吉里吉里学園中等部24名、その他5名 計29名</p> <p>○刈取り及びボイル塩蔵作業  【月 日】 平成31年2月23日  【場 所】 吉里吉里漁港  【参加者】 吉里吉里学園中等部28名、その他16名 計44名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
備考	・指導者 漁協職員1名 漁業者4名（吉里吉里ワカメ養殖組合員） 県職員1名		



活動名	新巻さけ作り体験学習会		
実施主体 (協力機関)	新おおつち漁業協同組合女性部		
総事業費	32,305 円	うち助成額	32,305 円
目的	大槌町立吉里吉里学園小学部生を対象として、大槌地域の基幹産業である新巻づくりの体験実習を実施して、地域水産業への興味の熟成及び理解を図るものである。		
活動内容	<p>○新巻づくりについての学習  新巻づくり体験①（鮭のエラ、内臓除去、洗い、塩漬け作業）  【月 日】 平成 30 年 11 月 27 日  【場 所】 吉里吉里漁港 荷捌き施設  【参加者】 吉里吉里学園小学部 14 名、教師 2 名、女性部 5 名 計 21 名</p> <p>○新巻づくり体験②（塩漬けした鮭の洗い、干す作業）  【月 日】 平成 30 年 11 月 30 日  【場 所】 吉里吉里学園  【参加者】 吉里吉里学園小学部 14 名、教師 2 名、女性部 1 名 計 17 名</p> 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者  新おおつち漁協所属漁業者  新おおつち漁協女性部等</li> </ul>		



活動名	山田町内の小学生を対象とした水産教室		
実施主体 (協力機関)	三陸やまだ漁業協同組合		
総事業費	50,040 円	うち助成額	50,000 円
目的	水産業に対する理解と関心を高めるために管内の小学生(大浦小学校 1～6年生 19名)を対象に体験学習(ほたて叩き・かき剥き体験)を実施した。		
活動内容	<p>○ほたて叩き (ホタテ貝の付着物除去作業)  【月 日】 平成 30 年 6 月 1 日  【場 所】 大浦漁港 荷捌き施設  【参加者】 小学生 19 名</p>  <p>○カキ剥き (マガキのカキ剥き作業)  【月 日】 平成 31 年 2 月 21 日  【場 所】 大浦漁港 荷捌き施設  【参加者】 小学生 19 名</p> 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者  (ほたて叩き) 漁業者 1 名、漁協職員 1 名  (カキ剥き) 漁業者 1 名、漁協職員 2 名</li> <li>・当初計画していた「新巻鮭づくり」は、鮭の不漁等により鮭の確保が困難となり体験学習の実施を見送った。</li> </ul> 		

活動名	平成30年度小中学生漁業体験・学習事業		
実施主体 (協力機関)	重茂漁業協同組合		
総事業費	134,128 円	うち助成額	50,000 円
目的	<p>重茂小学校児童を対象とした次の体験活動を通して海の人担い手の育成を図る。</p> <p>1 サケ稚魚放流、ふ化場見学、サケ定置網、新巻づくりの体験学習を通して、水産業についての理解を深め、地域の重要産業である水産業の後継者の育成に資する。</p> <p>2 海を中心とした郷土の自然や環境とそこに住む生物との結びつきに理解を深め、郷土の自然を愛し、環境を守ろうとする意識を育てる。</p>		
活動内容	<p>○鮭の飼育学習（鮭の採卵、受精見学、鮭の飼育、観察活動） 【月 日】 平成30年12月10日 【場 所】 鮭ふ化場、重茂小学校 【参加者】 小学生7名、その他1名 計8名</p> <p>○新巻鮭づくり体験①（鮭の解体、塩漬け作業） 【月 日】 平成30年11月26日 【場 所】 重茂漁港、漁港関連施設 【参加者】 小学生16名、その他22名 計38名</p> <p>○新巻鮭づくり体験②（洗い、乾燥準備作業） 【月 日】 平成30年12月6日 【場 所】 重茂小学校体育館脇 【参加者】 小学生16名、その他22名 計38名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
備考	<p>・指導者 (サケふ化場見学) 重茂小学校教員1名、重茂漁協職員5名 (新巻鮭づくり体験) 重茂小学校教員1名、PTA役員7名</p> <p>・当初7月に計画していた「定置網見学」は、天候不良により実施を見送った。</p> <p>・助成事業とは別に鮭の飼育学習を実施 昨年度、採卵後飼育観察してきたサケ稚魚放流 (平成30年4月16日(月) 重茂川)</p>		






活動名	漁業担い手確保対策事業【小中学生漁業体験学習事業】		
実施主体 (協力機関)	岩手県立宮古水産高等学校		
総事業費	50,157 円	うち助成額	50,000 円
目的	下閉伊管内を中心とした、中学3年生を対象とし、校内外の施設見学及び各科の実習室等において特色を活かした体験的学習を実施した。この体験をとおして進路選択の参考にしてもらうとともに、水産業の重要性を伝えた。		
活動内容	<p>○平成30年度中学生一日体験入学  【月 日】 平成30年7月27日  【場 所】 岩手県立宮古水産高等学校・実習船（りあす丸・海翔）  【参加者】 中学生135名、その他0名 計135名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋技術科…海翔体験航海、ホタテガイ解剖</li> <li>・食品家政科…水産食品加工実習</li> <li>・食物科…調理体験等</li> </ul>		
	  		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者 宮古水産高等学校職員及び生徒 名</li> </ul>		



活動名	小中学生漁業体験・学習事業 (久喜地区少年水産教室)		
実施主体 (協力機関)	久慈市漁業協同組合		
総事業費	49,850円	うち助成額	49,850円
目的	久喜地区 3~6 年生を対象に体験活動により漁業に対する理解と関心を高め、漁業担い手の維持確保を図るため漁業体験学習を実施した。		
活動内容	<p>○漁業体験学習  屋形定置網起こし見学、船上磯観察、船漕ぎ、ウニ採り、ウニ剥き体験  【月 日】 平成 30 年 7 月 21 日  【場 所】 久喜港、荷捌き施設、屋形定置漁場  【参加者】 小学生 18 名、その他 57 名 計 75 名</p>  <p>○鮭いくら、新巻づくり体験① (鮭いくらづくり、鮭新巻づくり)  【月 日】 平成 30 年 11 月 13 日  【場 所】 久喜港、荷捌き施設  【参加者】 小学生 10 名、その他 23 名 計 33 名</p> <p>○鮭いくら、新巻づくり体験② (鮭新巻  塩洗浄、鮭新巻干し)  【月 日】 平成 30 年 11 月 21 日  【場 所】 久喜小学校  【参加者】 小学生 10 名、その他 14 名  計 24 名</p> 		
備考	・指導者 県北広域振興局水産部、久慈市林業水産課、久喜漁業生産部、久喜漁業研究会、久喜女性部、久喜屋形定置、久喜小 P T A、久慈市漁協		

活動名	宿戸地区 少年水産教室		
実施主体 (協力機関)	種市南漁業協同組合		
総事業費	54,000 円	うち助成額	50,000 円
目的	宿戸地区中学1年生(16人)を対象に、地区の特産物であるウニ採捕および加工体験の体験学習を通じ、地域漁業者との交流を深め次代の漁業担い手育成を図った。		
活動内容	<p>○宿戸地区 少年水産教室  【月 日】 平成30年7月29日～31日  【場 所】 洋野町宿戸  【参加者】 中学生16名、その他 0名 計16名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ウニ採り体験</li> <li>2 塩ウニづくり体験</li> <li>3 塩ウニ瓶詰め作業体験</li> </ol>		
	  		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者 種市高等学校、県北広域振興局水産部、宿戸漁業研究会、宿戸女性部、漁業士</li> </ul>		

(2) 水産高校等連携育成事業

活動名	「平成30年度 水産クラブ研究活動」		
実施主体 (協力機関)	岩手県立高田高等学校		
総事業費	112,183円	うち助成額	100,000円
目的	<p>水産クラブ研究活動を通じて、水産・海洋等への興味関心を高め、さらには自ら設定した課題を解決することができる能力を育成する。</p> <p>○海洋科学コース（部員8名） 魚の生態と環境調査          広田湾の生態系を調べるため湾内に生息する魚の生態と、水温や塩分濃度などの調査をおこなった。</p> <p>○食品科学コース（部員7名） 新商品の開発          広田湾産エゾイシカゲ貝を使用し、燻製を中心とした加工品開発の取り組みをおこなった。</p>		
材料及び方法等	<p>○海洋科学コース          材料と方法</p> <p>実験1. 大陽漁港における魚の採取と水温測定          広田湾内に位置する大陽漁港で釣りによる魚採捕と水温測定を5回行った。          (2017年6月15、22、25日、7月6、18日)          採捕魚は各種図鑑を用いて外部形態により分類し個体数を計測、水温は簡易式水温計を用いた。</p> <p>実験2. 大陽漁港内に生息する魚の胃内容物の観察          実験1で採捕した魚の胃内容物の観察を行った。胃内容物をシャーレに広げ魚類の体液と同じ濃度に調整した生理食塩水で希釈したうえで、目視により魚類、甲殻類、頭足類、貝類、多毛類の計5種類に分類した。</p> <p>実験3. 広田湾における水温および塩分濃度の調査          東海大学海洋学部の協力のもと、湾内の水温及び塩分濃度をCTDにより測定し、広田湾の地図にプロットし温および塩分濃度のマップを作成した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>岩手県 陸前高田市 広田湾</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>陸前高田市 高田高等学校 大陽漁港</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大陽漁港</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大陽漁港内での調査風景</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">広田湾 大陽漁港の位置</p> <div style="text-align: center;">  </div>		

○食品科学コース

昨年度、地元の特産品であるイシカゲ貝を使用したふるさと納税返礼品「陸前高田の夢貝かぜ(むかいかぜ)」を開発した。

今年度は、消費者や生産者のニーズを調査し、販路拡大に役立つ商品開発ができるのか考えていくことにした。



① 消費者や生産者のニーズ調査

イシカゲ貝の販売効果（生産組合長から話を伺いました）

- ・貝缶詰を販売して、どのような反響があったか。
- ・販売するにあたっての課題は何か。
- ・どのような関連商品があればよいですか。
- ・今後の展開はどのように考えているか。

今年度の文化祭においてアンケートにより地元の方々に聞いてみた。

- ・缶詰1つの値段は？

② 販路拡大に役立つ商品開発

①の消費者や生産者のニーズ調査を踏まえて2種類の開発に取り組んだ。

「新夢貝かぜ」開発の取り組み

アンケートの結果、味が良いかどうか以前に全員が高いと感じたようであり、もう一度、原材料を見直し、どのようにしたら味を変えずに原価を下げられるかを検討した。



品名	単位	単価
イシカゲ貝	k g	3300 円
蒸しウニ	k g	<b>19000</b> 円
だし昆布	k g	5900 円
干しシイタケ	g	7 円
煮干し	g	1 円

新しいイシカゲ貝加工食品の開発

生産組合長から「イシカゲ貝の姿が見える加工品を」という話があり、学校の既存設備を利用してできることを検討した結果、「イシカゲ貝そのものの燻製」を製作することにした。

以下の開発工程ごとに検討した。

- ①イシカゲ貝を無水で加熱し斧足を開く。
- ②醤油、みりん、煮汁・バター等で味を調えた汁で味付けする。
- ③チップの種類による燻煙効果を調べる
- ④真空パックに詰め、常温保存



○海洋科学コース

(1) 結果と考察

実験1では、アイナメ、エゾイソアイナメ、タケノコメバル、クロメバル、アサヒアナハゼ、リュウグウハゼ、ゴマサバの計7種の魚が採取された。

時期別の採捕尾数は、アイナメが6月15日から徐々に増加、25日に最大となり、7月18日にかけて減少、一方クロメバルとゴマサバが6月25日までは認められず7月18日にかけて増加した。このことから生息する魚種や数は湾内の水温変化に合わせ増減することが明らかとなった。

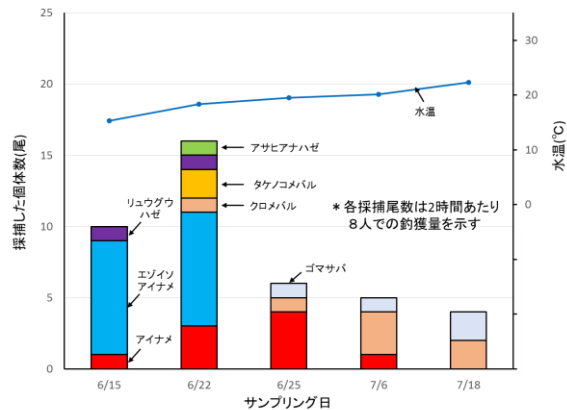


図5. 平成30年 広田湾 大陽漁港内での採捕魚体数と水温の関係

活動内容  
(結果及び考察)

実験2では、6月15、22、25日および7月6日の採捕魚からスナホリムシ、エビやカニなどの小型の甲殻類が多く観察された。この期間、漁港内では小型甲殻類が増えそれを餌とする魚が増えたものと考えられる。一方7月6、18日は頭足類や魚類など回遊性魚介類が観察され、メバルやゴマサバの採捕数が増加しており、水温上昇に合わせて回遊性の頭足類や魚が入り込み、それを餌とする魚が入り込んだものと考えられた。

実験3では、水温は西側の沿岸域で高く、東島側の沿岸域で低い傾向が見られた。塩分濃度は西側の沿岸域で低く、東島側の沿岸域で高い傾向が見られた。

西側には気仙川が位置していることから河川水が流入することで水温が高く塩分濃度が低くなると考えられた。湾東側に位置する大陽漁港は湾外から流入する海水により水温が低く塩分濃度が高くなると考えられた。

以上から、大陽漁港内に生息する魚の種類や数が、餌となる甲殻類や回遊性の頭足類や魚類の数の増減に伴い変化することを明らかにしました。また、餌生物の数の増減は湾外からの海水の流入が関わっている可能性を示しました。

今後は、同様の調査を続けていくとともに、海洋の生態系を構成する魚以外の動物や無機的环境についてもさらに詳しく調査することで、広田湾の生態系全体の状況を明らかにしていきたい。



○食品科学コース

① 消費者や生産者のニーズ調査

(生産組合長のお話)

- ・まだまだ認知度は低い。今は生鮮食料品として流通しているが、売店等でも売れるような商品が必要。
- ・現在の養殖生産量では東京市場向けしか供給できない。天然種苗であるため生産量がまだ不安定。
- ・イシカゲ貝の姿が見える加工品を作ってほしい。
- ・広田のイシカゲ貝は希少価値がある。陸前高田にしかないというアピールが必要。

(文化祭でのアンケート)

- ・夢貝かぜは1缶1,500円である。アンケートでは全員が高いと感じた。
- ・一方では、「味が良ければ」、「お土産としてなら」という条件付では、1,500円でも買うかもしれないという意見もあった。

② 販路拡大に役立つ商品開発

「新夢貝かぜ」開発の取り組み

○加熱処理

下処理段階の加熱時間を5分・10分・15分とした結果、10分以上の加熱では、身の表面が硬くなりゴムのような食感になった。よって、以下の加熱時間10分とした。

○味付け・燻煙（冷燻）

チップ2種類（桜とヒッコリー）×味6種類（塩・コショウ、バター風味、醤油風味、味噌風味、カレー風味、ピザ風味）×燻製時間4種類（2分、5分、10分、15分）＝48通りの実験を行った。


- ①味により、美味しいと感じる燻煙時間が異なる。
- ②燻煙時間が10分では、砂糖の甘みが非常に強く出てしまう。
- ③燻煙時間が15分と長い場合、煙のにおいが強すぎて、貝のうま味が出てこない。
- ④チップは桜は煙が多く短時間で燻煙効果があるが、反対にヒッコリーは煙が少なく燻煙に時間がかかるが優しい感じの燻煙効果であった。
- ⑤調味液に浸す時間は約50分としたが、この時間も今後検討が必要。

加熱時間	食感
5分	やや生の感じがする
10分	程よい硬さを感じる
15分	表面がゴムみたいに硬い



	3分	5分	10分	15分
醤油	◎	◎	○	△
カレー	○	◎	○	○
バター	△	△	△	△
味噌	△	△	△	△
塩	○	○	○	○
ピザ	△	△	×	×

	<p><b>③まとめ</b></p> <p>「夢貝かぜ」は、昨年度ふるさと納税返礼品として製作した。日本各地から反響が届いており、評価は上々である。しかしながら地元の認知度は非常に低いものがあり、また調査の結果、値段の高さも購買意欲を下げているということがわかった。今後は地元向けの値段を下げた商品開発と、お土産等の陸前高田にしかない高価な加工品という2方向からの商品開発が求められる。</p>
備考	

活動名	地元未利用水産資源（ダイナンギンポ）の利用に関する基礎的研究		
実施主体 (協力機関)	岩手県立久慈東高等学校		
総事業費	143,399円	うち助成額	142,000円
目的	<p>海洋科学系列3年生10名による研究活動          ギンポは東京では高級天ぶらの具材となり高値で取引されているが、地元ではほとんど利用がなされていない。昨年の研究成果を踏まえて以下の点を明らかにすることを目標に取り組んだ。</p> <p>研究1) ギンポの流通と利用実態          研究2) ギンポの鮮度低下          研究3) ギンポの異なる飼育環境下での成長の違い          実践) 食材としての久慈のギンポへの評価</p>		
材料及び方法等	<p><b>研究1) ギンポの流通と利用実態を明らかにする。</b>          東京都中央卸売市場築地市場にあるギンポを取り扱う仲卸業者から、流通と利用実態に関する聞き取りを行う。</p> <p><b>研究2) ギンポの鮮度低下を検証する</b>          ギンポはアシが早いという話を聞いていたので、K値測定予定日より逆算して1週間前、5日前、3日前、前日にそれぞれ締め、氷蔵（5℃設定）で保管して、ろ紙電気泳動法によるK値測定を行った。</p>  <p>図4 分析に使用した鮮度チェッカー</p> <p><b>研究3) ギンポの異なる飼育環境と成長の違いに関する基礎研究</b>          商品価値が高いサイズまで育ててから出荷することを考え、中間育成を念頭に置いた飼育環境について検討した。</p> <p>①飼育に用いたダイナンギンポは、5月9日～8月23日に久慈市長内町地先で釣りで採取した111個体（全長112mm～299mm、体重6g～113g）を用いた。</p> <p>②飼育試験は「もぐらんぴあ」のバックヤードを間借りして、循環ろ過型の飼育実験水槽システムを構築し、A～Dの4水槽にそれぞれ異なる環境を設定した。</p> <p>A水槽：水温管理なし。          B水槽：水温管理なし、隠れ家あり。          C水槽：水温18℃設定。          D水槽：水温18℃設定、隠れ家あり。</p> <p>各水槽の大、中、小の体サイズが大きく異なる3個体ずつを入れ、6月1日～9月17日まで飼育した。飼料は配合飼料を毎日1回、5分程度で食べきる量を与えた。魚体測定は毎月1日に全12個体について全長と体重を行った。</p> <p><b>実践) 食材としての久慈のギンポへの評価</b>          6月と7月の2回、合計20個体を酸素で充填させたナイロン袋に入れて築地市場へ試験出荷した。</p> <p>翌日午前中に、天ぶら専門店「天一」（東京中央区銀座）と創作和食料理屋「分とく山」（港区西麻布）に運ばれ、実際に料理人の手によって調理していただき感想を聞き取りした。</p>		



活動内容  
(結果及び考察)

### 研究1) ギンポの流通と利用実態を明らかにする。

仲卸業者「有限会社 ナンバ水産」難波昭信社長から聞き取りを行った。築地では商品名「ニシキギンポ (和名ギンポ)」が扱われており、ギンポの産地は全国広くにあるが専門の漁師は稀であり、供給が不安定なことが特徴であると考えられた。

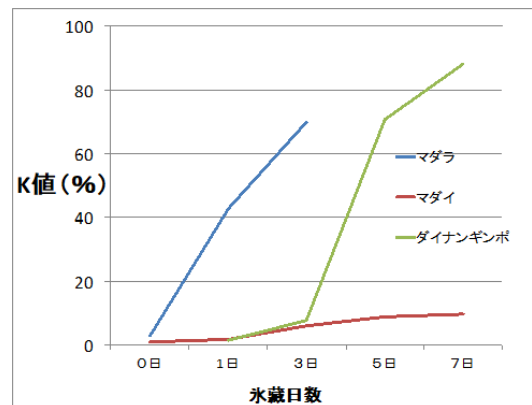
ギンポは活魚流通が一般的であり高級品を扱う料理屋が買うことが多い。開いた状態で居酒屋等の提供する需要も多いとのこと。



図1 ギンポに関して、難波社長に質問する私たち。

### 研究2) ギンポの鮮度低下を検証する

K 値は氷蔵 3 日まではマダイに似た推移を示したが、以降は急速に鮮度低下が進行した。活魚荷を希望している理由に納得できる結果であった。



### 研究3) ギンポの異なる飼育環境と成長の違いに関する基礎研究

今回の実験では、水温の差異、隠れ家の有無で成長の差が出ることを仮定して臨んだが、明瞭な傾向を認めることができなかった。しかし、増肉係数が0.92～1.67と他魚種と比較しても効率が高いことがわかり、中間育成させやすい魚種の可能性が示唆された。

	A 水槽	B 水槽	C 水槽	D 水槽
試験期間総給餌量 (g)	27.1	30.6	41.8	53.3
試験期間純体重増加量 (g)	29.5	24.1	25	45.4
飼料効率 (%)	108.9	78.8	59.8	85.2
増肉係数	0.92	1.27	1.67	1.17

### 実践) 食材としての久慈のギンポへの評価

「天一」では、天ぷらにさせていただいたが、ふわっとした白身の食感が良いという評価を頂いた。

「分とく山」では、野崎洋光料理長からは、活魚で持ってくるから美味しくないわけがないとしつつ以下のアドバイスをいただいた。

- ・東京に持って来ればダイナンギンポを高価でも買う人はいくらでもいる。でも、まだ東京には来ない方がいい。
- ・久慈や岩手の人が胸を張って、全国に発信できる調理の仕方を考えなさい。天ぷらにこだわる必要は全くない。
- ・岩手である程度、売れるようになったら東京に持ってきてください。その時は協力を惜しみません。



図9 活魚で梱包されるダイナンギンポ。

### 結論

- ・高級天ぷらダネのギンポは流通量が少なく、その上不安定であり、ダイナンギンポがその代替魚種になりうる可能性がある。
- ・ギンポは白身魚だが、マダラ同様に鮮度低下が早い。そのために活魚輸送が一般とされていることがわかった。
- ・ダイナンギンポは増肉係数が低く中間育成させやすい魚種の可能性が示唆された。



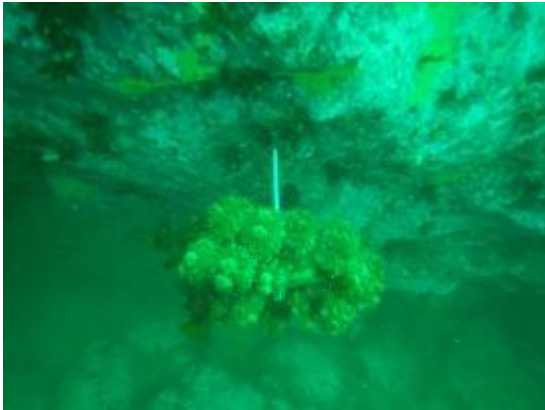

### 次年度に向けて

分とく山の野崎料理長のアドバイスを受けて、今後は久慈でのダイナンギンポの調理加工方法の開発に着手し、漁業者を中心に久慈市民にダイナンギンポを食べてもらい、地元での認知度向上に努めることにする。それと並行して、ダイナンギンポは大型個体の方が有用であることから、限



られたスペースでの効率の良い飼育方法の知見を集め、久慈のギンポを宝にできる日を迎えられるように後輩たちには研究を続けて欲しい。

備考

活動名	天然マボヤの増殖研究		
実施主体 (協力機関)	岩手県立種市高等学校		
総事業費	315,400円	うち助成額	315,000円
目的	<p>海洋開発科による現場実習と研究活動 種市高校海洋開発科の潜水スキルを活かし、近年漁獲量が減少している天然マボヤの増殖に取り組んだ。</p>		
材料及び方法等	<p><b>試験1) マボヤの成長、生残の把握</b> 天然漁業におけるマボヤの成長、生残等を把握するため、天然漁場の岩盤に、マボヤの人工種苗を固定したブロックを設置し、生徒が定期的に潜水して観察する。 ブロックは、時化で流失しないように、海底の岩盤にアンカーボルトで固定することとする。</p> <p><b>試験2) マボヤ減耗要因の把握</b> 天然漁場でのマボヤの減耗要因の一つに、外敵生物による食害が考えられることから、天然漁場に生息する生物を採取し、どのような生物がマボヤを捕食するのか水槽実験を行う。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>		

活動内容 (結果及び考察)	<b>ア 生徒の現場実習</b>				
	マボヤ周辺環境調査	4月中旬～1月中旬	種市漁港～平内漁港	3年生12名	マボヤの分布調査、環境の調査及び、マボヤの減耗要因の調査を行った。(沖合での潜水を除いた調査で主に目視調査)
	潜水調査	7月～12月	天然マボヤ漁場周辺	3年生35名 2年生31名	天然マボヤの漁場周辺の潜水調査を行った。(水深10m～18m)
	潜水調査(沿岸域)	4月～11月	種市漁港湾内周辺	3年生35名 2年生31名	沖合での潜水が困難な場合、湾内でのマボヤ及び周辺生物の生態調査を行った。(水深5m以下)
	マボヤの人工種苗ブロックの沖合移設	11月末～12月末	天然マボヤ漁場周辺	3年生35名	現在管理している親ボヤ人工種苗ブロック3個を水深17m付近の岩盤に設置した。
	移設後の潜水調査	12月初旬	天然マボヤの漁場周辺	3年生35名	設置後の周辺の調査。ブロックの状態、外敵、環境の変化を潜水で調査した。
	<b>イ 技術者による学校での実践的指導</b>				
	ホヤの採り方	7月	種市漁港	3年生18名	潜水漁業としてのマボヤの採取方法を学んだ。
	潜水土による海底岩盤への削孔及び設置方法	9月末～10月末	種市漁港 実習プール	3年生35名	本校職員指導により岩盤への設置方法を学び訓練を行った。
	<b>ウ 共同研究研究</b>				
マボヤの放卵から採苗	11月中旬～12月末	岩手県水産技術センター種市事業所	3年生12名	親ボヤからの採苗の技術を学んだ技術を応用し自前の水槽で抱卵を確認した。採苗結果の成否はまだ不明。	
天然マボヤの減耗調査	4月中旬～12月初旬	種市沖及び飼育水槽	3年生35名 2年生32名	天然漁場でのマボヤの減耗要因を探るため、水槽内でマボヤを管理し周辺外敵からの食害観察を行った。	
<b>エ 小中学校との連携</b>					
地元小中学生への紹介	8月	種市漁港 実習プール	3年生35名 2年生32名 1年生26名	直接的にマボヤを披露する機会を設けることができなかった。漁業潜水の魅力は発信できた。	
備考 協力機関	ホヤ採り船団、地元漁業者 岩手県栽培漁業協会種市事業所				

### (3) 漁業志向青年等体験学習事業

活動名	宮古地区体験漁業実施事業		
実施主体 (協力機関)	宮古市漁業就業者育成協議会		
総事業費	163,044 円	うち助成額	163,044 円
目的	漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験を実施し、漁業就業意識を高める。		
活動内容	<p>当協議会で養殖漁業、漁船漁業、採介藻漁業及び定置網漁業等の漁業体験を企画し、漁業就業を希望または検討する者を対象に公募を行い、漁業者の指導の下、希望する漁業種類の漁業体験を実施した。</p> <p>1 実施月日及び内容</p> <p>(1) ホタテ・カキ養殖漁業体験参加者説明会  開催日時 平成 31 年 1 月 17 日 (木) 13:00~14:00  場所 宮古市役所 2階 2-1 会議室  参加者 3名 … 1/18 ホタテ養殖体験者 2名、1/18 カキ養殖体験者 1名  主な内容  漁業体験参加にかかる保険加入手続きのあと、「宮古市の概要について」、「岩手県沿岸及び宮古市の漁業について」、「カキ・ホタテ養殖について」等を説明</p> <p>(2) ホタテ養殖漁業体験 (1回目)  開催日時 平成 31 年 1 月 18 日 (金) 6:30~9:30  場所 日立浜ホタテ処理施設、一区第 115・116 号養殖漁場  参加者 2名  主な内容  船上から水揚げ作業と付着物除去作業を見学、帰港後日立浜ホタテ処理施設で出荷準備作業 (付着物除去・サイズ計測・仕訳) を体験</p> <p>(3) カキ養殖漁業体験  開催日時 平成 31 年 1 月 18 日 (金) 7:30~11:00  場所 堀内カキ処理施設、一区第 118・119 号養殖漁場  参加 1名  主な内容  船上から水揚げ作業の見学、帰港後堀内カキ処理施設で出荷準備作業 (殻むき・洗浄) を体験</p> <p>(4) ホタテ・ワカメ養殖漁業体験参加者説明会  開催日時 平成 31 年 2 月 7 日 (金) 11:00~12:00  場所 宮古市役所 2階 2-1 会議室  参加 2名 … 2/8 ホタテ養殖体験者 1名  2/8 ホタテ養殖体験と 2/15 ワカメ養殖体験者 1名  主な内容  漁業体験参加にかかる保険加入手続きのあと、「宮古市の概要及び岩手県沿岸・宮古市の漁業について」、「ワカメ養殖について」、「カキ・ホタテ養殖について」、「いわて水産アカデミーについて」等を説明</p>		

(5) ホタテ養殖漁業体験 (2回目)

開催日時 平成31年2月8日(金) 6:30~10:30

場所 日立浜ホタテ処理施設、一区第115・116号養殖漁場

参加 2名

主な内容

船上から水揚げ作業を見学し付着物除去作業を体験、帰港後日立浜ホタテ処理施設で出荷準備作業(付着物除去・サイズ計測・仕訳)を体験

(6) ワカメ養殖漁業体験

開催日時 平成31年2月15日(金)7:30~10:00

場所 摂待漁港、摂待養殖施設

参加 1名

主な内容

船上でワカメの間引き作業を体験



2 参加者の感想等(順不同)

(1) 参加のきっかけ

- ・大学卒業後の就職先のひとつとして、漁業を考えていた。
- ・現在求職中、漁業に関する仕事も視野に入れて広報を見て、体験したいと思い申し込んだ。
- ・現在転職を考えており選択肢のひとつとして漁業を考えて申し込んだ。
- ・漁業体験については、ラジオで知った。
- ・現在、魚屋で働いており、自分が扱っている水産物がどのようにできているのか知りたくて申し込んだ。
- ・2年ほど前に県外から市内に引っ越してきた。海が大好きで漁師の知り合いも多く、自分も漁業をやってみたいと思った。

(2) 体験の感想

- ・漁業についてより知ることができた。短期研修への参加も検討したい。
- ・海に関する仕事は自分の感性に合っていると思った。
- ・非常に貴重な体験だった。今後の自分の仕事に活かしていきたい。
- ・普段自分が食べているホタテについて、水揚げ方法を知ることができて大変勉強になった。
- ・大変勉強になったが、漁業体験で船酔いをしてしまい漁業就業はあきらめたいと思う。しかし、海と海産物が好きなことは変わらないので、船に乗らない水産関係の仕事を探したい。

3 次年度以降にむけて

今年度から漁業体験の前日に参加者向けに説明会を開催したことで、宮古や岩手県の漁業について、また、体験する漁業の周年サイクル等、予備知識を持って参加してもらうことができた。

次年度以降は養殖漁業に加え、漁船漁業や沖底曳網漁業の体験も視野に入れて組立てをしたい。

備考

- ・指導者  
地元漁業者3名

2 (2) 新規漁業就業者技術研修事業



研修名	蛸かご漁業の技能技術研修		
研修地域	大船渡市三陸町綾里		
総事業費	296,000 円	うち助成額	296,000 円
目的	新規就業者の自立支援のため、蛸かご漁業の技能技術研修及び自立設計に助言した。		
活動内容	<p>○研修生</p> <p>○研修期間 平成30年12月7日～平成31年2月3日（39日間）</p> <p>タコ籠漁の概要説明から始まり、生態、活かし方、揚縄の研修を実施、操業研修を行いながらボンデンの作り方、アンカーの縛り方、籠の補修等漁業で必要な実技の指導を受けた。</p> <div data-bbox="678 1019 1136 1624" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">蛸かご補修作業</p>		
備考			

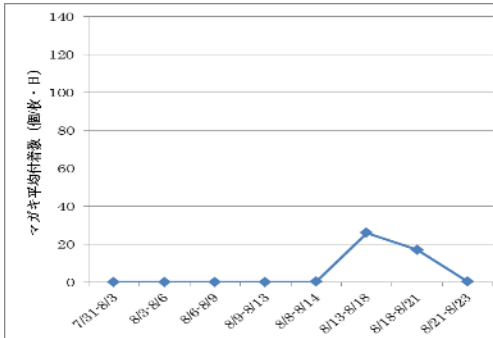
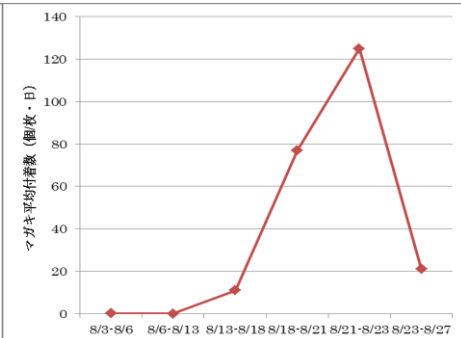




### 3 (1) 研究グループ等活動事業

#### ア 研究実践活動

活動名	平成 30 年度養殖用マガキ種苗の地場採苗試験		
実施主体 (協力機関)	大船渡市漁協末崎支所門之浜かき養殖組合		
総事業費	143,399円	うち助成額	142,000円
目的	<p>門之浜かき養殖組合は、本県他地区のかき養殖業者と同様、養殖用種苗を宮城県に全て依存している。</p> <p>近年、門之浜湾内の養殖生産物や岸壁へマガキ付着が顕著に見られたことから地場採苗の可能性を探るため、採苗試験を実施する。</p>		
材料及び方法等	<p>1 水温調査 湾内 2 か所の水深 1m と 5m の計 4 か所に水温ロガーを設置し、平成 30 年 4 月 6 日から 9 月 30 日まで 1 時間毎に記録した。1 日の水温は 24 時間の平均値とし生殖巣成熟の目安となる積算水温を算出した。</p> <p>2 幼生調査 水温ロガーと同じ所でプランクトンネット (目合 20<math>\mu</math>) 鉛直曳により 7 月 24 日から開始し、積算水温が 600<math>^{\circ}</math>C に達した以降は頻度を週 2 回程度に高めた。</p> <p>3 マガキ成熟度指数 (GSI) 養殖マガキの軟体部を輪切りし、軟体部横断面径と消化盲のう部横断面径を 0.1mm 単位で測定し、次の計算式より求めた。 成熟度指数 = (軟体部横断面径 - 消化盲のう部横断面径) <math>\div</math> 軟体部横断面径</p> <p>4 付着稚貝調査 (1) 養殖用採苗器投入前 水温ロガーと同じ場所においてホタテガイ貝殻 10 枚を 1 連とした試験用の採苗器を用いて原則週 2 回の頻度で行い、回収した原盤 10 枚のうち 3 枚の表裏を実体顕微鏡やルーペで検鏡して付着している稚貝を計数した。 (2) 養殖用採苗器投入後 養殖用採苗器 300 連を投入後は、養殖用採苗器の上・中・下から原盤を各 1 枚抜き取り、原盤の表と裏に付着しているマガキ稚貝を定期的に計数した。</p> <p>5 シングルシード用プレート採苗試験 シングルシード用プレート (株式会社中村化学工業製) を使った採苗器を自作し、ホタテ貝殻製の採苗器と比較した。</p>		
	 		

<p>活動内容 (結果及び考察)</p>	<p>1 水温調査 成熟開始となる10℃に達したのは4月上旬頃。成熟の目安となる積算水温600℃には、「潮位表基準面+1m」が7月31日に到達、以降、「潮位表基準面」が8月5日、「水深1m」が8月7日、「水深5m」が8月16日(推定)に到達した。</p> <p>2 幼生調査 調査は9月13日まで行い、岸壁、養殖施設とも7月31日に出現ピークが観察された。なお、大量付着の目安とする数十個/原盤(岩手県水産技術センター報告)に達する明瞭なピークは確認できなかった。</p> <p>3 マガキ成熟度指数(GSI) 2年子のGSIは、8月6日39.6%(最小34.0%、最大45.6%)、8月21日38.5%(最小29.2%、最大50.0%)であった。8月6日の積算水温は491℃と成熟の目安になる600℃に達していないにもかかわらず高い値を示した。</p> <p>4 付着稚貝調査 平成30年は岸壁より養殖施設が早い時期に多くの付着が見られたが、投入の目安とする1日あたり原盤1枚3~5個の付着(岩手県水産技術センター報告)が、8月24日に4.9個の付着が観察されたことから採苗器を投入した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">原盤1枚1日あたりのマガキ付着数(青:岸壁、赤:養殖施設)</p> <p>養殖用採苗投入以降は、投入した採苗器を用いて計数し、採苗器投入後も1日あたり2~3個の安定した付着が続き、9月13日時点で原盤1枚当たり付着数は135個と最大となった。</p> <p>原盤の表側(凸側)と裏側(凹側)の付着数を比較すると表側の付着数が裏側のそれを上回る傾向が見られた。</p> <p>5 シングルシード用プレート採苗試験 平成29年8月28日に垂下した採苗器を、30年10月4日に観察したところ、凸面(上面)に多く付着していたが、裏面(下面)は著しく少ない傾向が見られホタテ貝殻原盤と類似の傾向であった。</p>
<p>備考</p>	


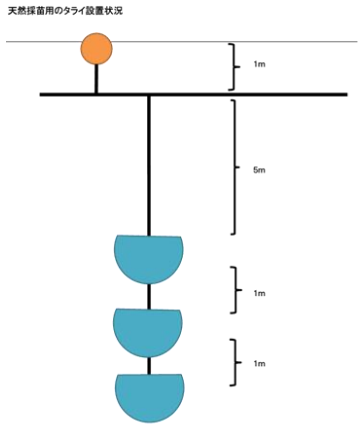

活動名	アサリ採苗試験		
実施主体 (協力機関)	新おおつち漁業協同組合青年部		
総事業費	114,480 円	うち助成額	110,000 円
目的	アサリ漁獲量は全国的に低迷しており、新おおつち漁協青年部は、将来の養殖種目拡大と所得向上を目的として、大槌湾内でのアサリ天然採苗試験を実施するとともに、地種を利用したアサリ養殖の可能性を検討する。		
材料及び方法等	<p>アサリ産卵時期に合わせて、平成 30 年 7 月 6 日に大槌湾内一区第 208 号組合前漁場にある養殖施設へ 12 連垂下した。</p> <p>採苗器の仕様及び水深は下図のとおりであるが、これよりも浅めの 4m と深めの 11m の水深にも設置(※一番上の採苗器までの水深)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 1 採苗器投入場所</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 2 採苗器垂下状況</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 3 採苗器(エゾイシカゲガイ養殖の容器)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 4 採苗器の投入(H30.7.6)</p> </div> </div>		
活動内容 (結果及び考察)	<p>平成 31 年 3 月 5、6 日に採苗器を回収して砂中を確認したところ、アサリ種苗は全く確認できなかった。アサリ以外で確認された有用二枚貝は表 1 のとおり、トリガイが優占していた。</p> <p>トリガイ種苗は採苗器の水深が深くなるほど明らかに数が減少していた。得られたトリガイ種苗を無作為抽出 (N=25) したところ、平均殻長は 45.9 mm であった。トリガイ種苗は 1 容器当たり 30 個程度の密度に調整して養成を継続した。</p>		

表1 採苗器中の有用二枚貝

垂下水深(m)	ホタテ	アカザラ貝	トリ貝	アサリ	その他
4	3	3	13	0	0
4	2	2	23	0	0
6	5	1	9	0	0
6	1	4	11	0	0
11	1	2	1	0	0
11	3	2	2	0	0
4	0	3	15	0	0
4	0	0	11	0	0
6	0	2	5	0	1
6	3	4	4	0	0
11	0	0	0	0	0
11	2	2	1	0	0

図5 トリガイ(1マスは1cm四方)

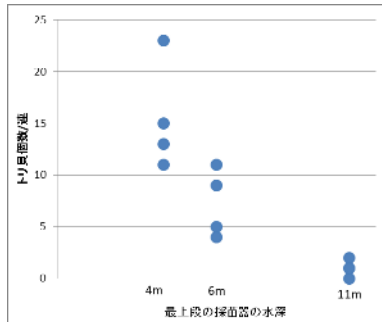


図6 垂下水深とトリガイ採苗数

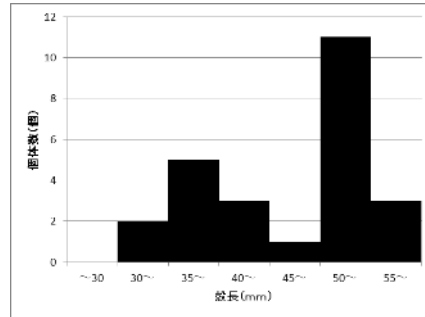


図7 無作為抽出したトリガイの殻長組成

活動内容  
(結果及び  
考察)

東北地方におけるアサリ産卵期は夏季を中心に年1回であることが知られている。

また、(国研)水産研究教育機構東北水産研究所では宮古湾におけるアサリ産卵期を7月後半と推測していることから、採苗器投入時期に問題は無かったものと考えている。

よって、来年度も基本的に同じ内容で試験を繰り返すこととするが、以下の点を変更する予定である。

- ①採苗器の一部を春季に投入する(大多数は夏季に投入)
- ②一部の採苗器の仕様を変更
- ③アサリ種苗の有無を確認する時期を前倒し

参考までに採苗器内には以下のような生物も入っていた。



オカメブンブク



オキナガイ



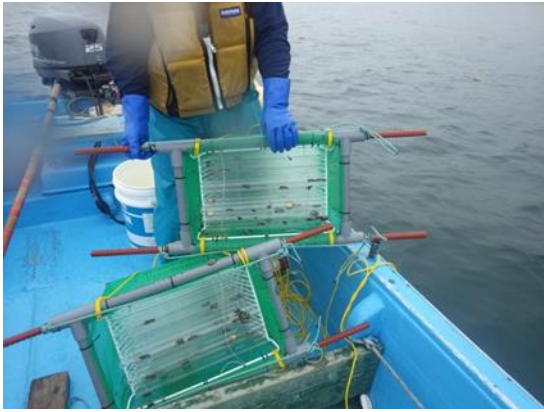
スノメアサリ



※写真は無いがハネガイも入っていた

備考

活動名	アワビ稚貝の容器放流試験		
実施主体 (協力機関)	二子漁業研究会		
総事業費	641,466 円	うち助成額	350,000 円
目的	<p>アワビ稚貝の放流は、これまで船上からのばらまき放流していたが、この方法と比べて稚貝にストレスをかけない方法として容器による放流を実施し、アワビ稚貝の放流時の生存率を高める。</p> <p>今後、容器放流を継続して行うことで、アワビの資源回復を図り、二子地先におけるアワビ生産の向上を目的とする。</p>		
材料及び方法等	<p>久慈湾二子地先におけるアワビ稚貝の容器放流試験</p> <p>1. 試験実施時期 平成 30 年 6 月 15 日～平成 30 年 7 月 20 日</p> <p>2. 試験実施場所 久慈湾二子地先・久慈市長内町二子生産部荷捌き施設</p> <p>3. 試験内容</p> <p>(1) 放流用容器の作製 (場所 二子生産部荷捌き施設) 資材搬入後、容器作製に取り掛かる (作製期間 6 月 15 日～6 月 30 日)</p> <p>(2) アワビ稚貝の搬入 (場所 二子生産部荷捌き施設) 7 月 17 日、岩手県栽培漁業協会種市事業所より午前 9 時にアワビ稚貝 4 万個を受け取り搬入した。二子生産部荷捌き施設にある水槽内に用意した放流用容器 50 個にアワビ稚貝を約 800 個ずつ収容して付着させた。収容後は上にシートを掛けて水槽内を暗くした。</p> <p>(3) アワビ稚貝の容器放流 (場所 二子地先海上) 7 月 19 日、天候は、曇り空で濃霧であったが、波・風が無いため予定通り作業を開始した。午前 6 時半より船に放流容器を積み込み、二子地先海上にて 7 時より容器放流を開始し午前 8 時に終了し帰港した。</p> <p>(4) アワビ稚貝の放流容器回収 (場所 二子地先海上) 放流容器の回収を放流日の午後 1 時より開始したが、放流容器にまだ 100 個程付着していたため、容器回収を翌日に変更し作業は終了した。 翌日の 7 月 20 日、天候は、昨日と同じ濃霧であった。午前 8 時より 50 個の放流容器の回収を始め、午前 9 時半に終了した。</p>		



<p>活動内容 (結果及び 考察)</p>	<p>放流結果として、放流容器内へのアワビ稚貝の残存数は、平均39個で放流戸数の4.7%であった(最大は8%の67個、最小は1.7%の14個)。</p> <p>アワビ稚貝を落ち着かせるため放流容器付着から放流日まで2日間置いた。放流当日は、濃霧であったため朝でも暗く、海中はもっと暗いため放流容器内からアワビ稚貝が脱出しにくい環境であったと推測される。</p> <p>しかしながら、船上からのばらまき放流に比べ、海底に沈めた容器から自力で岩場へ移動するため、アワビに掛かるストレスが軽減され、放流時の生存率向上に繋がるものと考察される。</p> <p>来年度以降も容器放流を継続することにより、二子地先のアワビ資源の回復を図り、生産量維持向上を目指したい。</p> 
<p>指導及び協力者</p>	<p>県北広域振興局水産部、久慈市林業水産課、久慈市漁業協同組合</p>

活動名	アワビ資源有効活用調査（標識放流）		
実施主体 （協力機関）	玉川浜漁業研究会		
総事業費	34,656 円	うち助成額	34,656 円
目的	<p>漁獲サイズのアワビ標識放流により前浜のアワビの漁獲率、資源量を把握し、資源の有効利用に活用する。</p>		
材料及び方法等	<p>平成 30 年 10 月 14 日に玉川浜漁協の地先漁場（図 1）から漁獲対象サイズのアワビ 103 個を採取して標識を装着した後、漁場内に均等となるよう分散放流した。</p> <p>標識は黒色のダイモテープに H30 と刻印したもので、アワビの呼水口に被覆ステンレス線で固定した（写真 1）。標識放流個体の平均殻長は 99.2 mm、平均重量は 136.2 g であった（図 2）。11、12 月の漁期中に漁獲された中から標識アワビを発見し、再捕された標識個体の数から漁獲率を求め、得られた漁獲率とアワビの漁獲量から漁獲対象アワビの初期資源量を推定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁獲率（％）＝標識アワビの再捕個数÷標識アワビ放流数×100</li> <li>・ 初期資源量＝漁獲量÷漁獲率</li> </ul>		
	 <p>図 1 調査漁場</p>		
	 <p>写真 1 標識アワビ</p>		

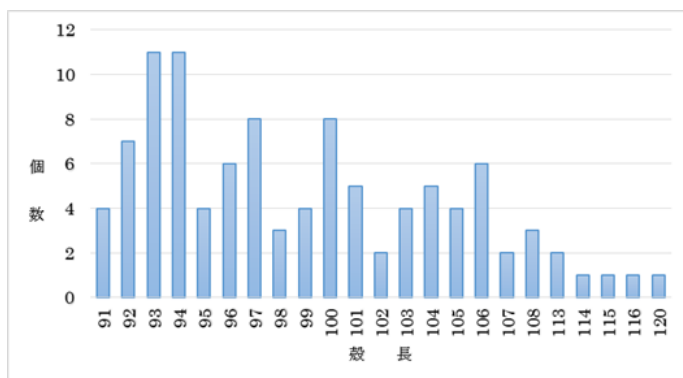


図2 標識アワビの殻長組成

表1に3年間の標識個体の再捕状況を示した。平成30年度は合計7回の口開けがあり、漁期中に再捕された標識個体は32個で、漁獲率は31.1%であった。

表2に漁獲対象アワビの初期資源量の推定値を示した。漁獲量と漁獲率から平成30年度の初期資源量は33,339個、4,322kgと推定された。

表1 標識個体の採捕状況

年度	標識放流数	採捕個数	漁獲率	口開け回数	標識種類
H28	112	61	54.5%	7回	青
H29	103	37	35.9%	11回	赤
H30	103	32	31.1%	7回	黒

活動内容  
(結果及び  
考察)

表2 漁獲対象アワビの初期資源量の推定

年度		漁獲量 (kg)	1個あたり 重量(g)	推定漁獲個 数	初期資源量 (個)	初期資源量 (kg)
H28	1号品	1,879.2	136.3	13,787	25,297	3,448
	2号品	90.4	136.3	663	1,217	166
	3号品	474.7	87.2	5,444	9,989	871
	合計	2,444.3	—	19,894	36,503	4,485
H29	1号品	1,701.3	138.9	12,248	34,117	4,739
	2号品	312.1	138.9	2,247	6,259	869
	3号品	333.3	87.2	3,822	10,646	928
	合計	2,346.7	—	18,317	51,022	6,536
H30	1号品	1,41.5	136.2	7,647	24,587.9	3,349
	2号品	182.0	136.2	1,336	4,296.7	585
	3号品	120.8	87.2	1,385	4,454.4	388
	合計	1,344.3	—	10,368	33,339.0	4,322

\*H30の3号品の1個あたり重量はH28・H29と同じと仮定。

指導及び協  
力者

県北広域振興局水産部



イ 研修活動

活動名	海外への販路拡大に向けたニーズ調査		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁業士会大船渡支部		
総事業費	684,235 円	うち助成額	250,000 円
目的	台湾への販売を実践する漁業士が数年前から見られており、この動きを加速させるため販路拡大に向けた市場調査を実施した。		
活動内容	<p>農林水産省 6 次産業プランナーの高橋勝昭氏のプランニングと引率により、台湾の企業関係者との交流、水産市場調査と本県産ワカメ、カキ、ホタテの市場評価を実施した。</p> <p>1 日程：平成30年10月24日水曜日～28日日曜日</p> <p>2 研修参加者名：大船渡支部会員 5名</p> <p>3 行程及び内容</p> <p>(1) 10月24日(水)羽田空港発 北松山空港着 台北市内にて台湾知日協会幹部と打ち合わせ</p> <p>(2) 10月25日(木)</p> <p>台北市場内見学 水産物及び野菜果物市場の見学 台北市で一番大きな市場、帆立、牡蠣、わかめを扱っていた。 水産物の卸・小売り・場内レストラン経営の三井上引水産と打ち合わせ 本社を訪問して持参した塩蔵わかめ、殻付き帆立、殻付き牡蠣を紹介、高い評価をいただきいたが、輸出入の二国間ルールがあり、今後の取引について情報交換を続けていくこととした。</p> <p><u>台湾知日協会と懇親会</u> 持参した塩蔵わかめ、殻付き帆立、殻付き牡蠣を紹介、協会幹部からも高い評価をいただいた。</p>		
			
	視察団		市場内風景

(3) 10月26日(金)

台中魚市場股份有限公司(台中最大水産市場)見学

嘉義県東石 牡蠣養殖場(加工場)見学

牡蠣は剥身袋詰め処理、一般的な調理法は茹でてケチャップ似のソースに付けて食べたり、油で野菜と炒めたり、牡蠣ラーメン、有名なのは牡蠣オムレツ。

大きさは小ぶりで養殖期間は6か月から1年で、台風が来る前に収穫する。

高雄国際食品見本市2018年 見学

出展対象物は、青果、生鮮農産食品、水産食品、冷凍調理食品、肉類及び乳製品、オーガニック食品、ベジタリアンフード、調味料及び食品添加物、乾燥食品、アルコール類、コーヒー、お茶、飲料、飴、クッキー、健康食品、お菓子、氷菓及び関連サービスなど、日本企業も参加していた

(4) 10月27日(土)

台北市場と基隆港付近の見学

台湾では、日本産海産物は信頼があり品質も高い物であることは認めていますが、価格が高いため一般的ではない印象を受けた。

(5) 10月28日(日) 台北松山空港発 羽田空港着 陸前高田市着 解散

活動内容



台湾知日協会との意見交換・懇親会



提供したワカメ料理

備考

活動名	藻場造成の先進地の視察研修		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁業士会久慈支部		
総事業費	160,100 円	うち助成額	109,600 円
目的	アワビ・ウニの餌対策の一環として、藻場造成の先進地の視察を行ない餌料海藻を増やすための漁場管理技術を学び、これらの技術を地域へ導入することでアワビ、ウニの水揚の安定を図る。		
活動内容	<p>1 時期 平成 31 年 3 月 26 日～27 日(二日間)</p> <p>2 視察先 北海道函館市</p> <p>3 対象者 漁業士 5 名</p> <p>(1) 北海道大学水産科学院視察</p> <p>ア 説明者：北海道大学水産科学院生理学研究室 准教授 浦和寛</p> <p>(ア) ウニの生殖周期と、漁期外に身入りを向上させる手法（人工餌料等によるウニの畜養）について説明をうけた。</p> <p>(イ) 昨年度洋野町小子内地区で行ったウニの畜養試験の結果について説明があった。</p> <p>イ 意見交換</p> <p>宿戸地区でウニ畜養を行う場合の手法（カゴを使った畜養、餌の地撒き等）飼育環境でウニがへい死する原因について</p> <div data-bbox="534 1144 1134 1592" data-label="Image"> </div> <p>(2) ㈱エコニクス視察</p> <p>ア 説明者：㈱エコニクス 上田取締役、大島技術開発チームコンサルタント</p> <p>(ア) ㈱エコニクスが製造している、藻場造成に使用する器具（スポアバック、水中カメラ）について説明があった。</p> <p>(イ) 関連企業であるアルガテック Kyowa が開発した「海藻を直接海底に取り付ける器具（品名：藻アシス）」について説明があった。</p>		

イ 意見交換

スポアバック投入時期や、食植性動物除去の必要性について  
水中カメラの利用方法（藻場の生育状況の確認、タコがカゴから脱出する方法の確認等）



活動内容

(3) 函館朝市視察

ア 視察内容

- ・函館市朝市（観光客向けの小売店街）を視察し、ウニの販売方法や加工品（土産品）の販売状況について見学した。
- ・生うに丼の単価は小サイズ（生うに 60g 程度）で 1,900 円～3,340 円（税込）であり、洋野町宿戸地区のイベントでの販売単価の 2 倍以上であった。



備考


活動名	先進地視察 アワビ陸上養殖加工施設		
実施主体 (協力機関)	小子内漁業研究会		
総事業費	1 2 5, 5 5 6 円	うち助成額	6 6, 0 0 0 円
目的	当組合のあわび陸上中間育成施設の飼育数の増加を目的に、北海道福島町にあるアワビ陸上養殖加工施設の設備、技術等が当組合の施設に応用できるか視察調査を行った。		
活動内容	<p>1 時期 平成31年1月18日～平成31年1月19日</p> <p>2 場所 北海道松前郡福島町 福島漁港内アワビ陸上養殖加工施設</p> <p>3 参加人数 4名(研究会3名、漁協職員1名)</p> <p>(1) 施設の概要</p> <p>施設は、福島町が特産品開発、産業雇用の創出のためH29に地方創生拠点整備交付金で整備した。</p> <p>陸上養殖は、水に関連するコストが大部分を占めるため水のコストをいかに削減できるかで採算性が決まる。地方創生加速化交付金で3年間試験し、現在の方法にたどり着いた。</p> <p>施設の生産能力は、アワビ殻長50mmサイズ15万個の生産が可能。生産したアワビは漁業者と競合しないよう加工品として販売する予定。</p> <p>(2) 飼育システムの概要</p> <p>当施設の特徴は、浅い飼育水槽(FRP製幅38cm、長さ147cm、深さ6cm)を鉄製のラックに多段式10段重ね1セットとすることで、少ないスペース、少ない飼育水で飼育できる。施設全体で100セット整備されている。</p> <p>1セットあたり1,500個飼育可能で、3%の勾配をつけて糞や浮遊性のゴミが自然に流下するようにしている。また、水槽は横方向に区切りられており、1区画10個程度を飼育している。</p> <p>水深を極限まで浅くし、水槽間に落差を設けることで飼育水に酸素が取り込まれやすくなり、少ない水量でも飼育でき酸素飽和度は100%あるとのこと。</p> <p>当飼育システムは町と町内建設業者が共同開発し建設業者が特許取得している。</p>		





活動内容	<p>(3) 給水等</p> <p>飼育水は生海水を高架水槽にポンプアップし、重力で配水。濾過装置はない。高架水槽から各飼育水槽セット上流にある受水槽を介して供給される。受水槽入口にザルが取り付けられ海藻の切れ端などの大型のゴミを取り除いている。</p> <p>1セットあたりの注水量は4.8ℓ/分。100セット分の必要量は0.48t/分。水槽掃除等でも水を使うので、施設のポンプ能力は必要量の倍としている。</p> <p>施設の運営にかかる電気代は月10万円程度。</p> <p>自然水温で飼育しており夏は23℃位まで上がるが冬は4℃以下にはならない。</p> <p>(4) 日常作業</p> <p>職員は4名 (+山内水産アドバイザー)。</p> <p>100セットを半分に分け、掃除と給餌を隔日で実施している。</p> <p>餌は配合飼料。掃除や給餌作業用具は自作で施設にあうよう工夫している。</p> <p>(5) アワビの成長等</p> <p>熊石にある種苗生産施設から殻長20mmの種苗を搬入し、10か月で殻長50mmまで成長させる。飼育期間中のへい死は1割程度。</p> <p>(6) 最後に</p> <p>こんなに少ないスペースで蓄養できるなどと誰が考えたのか目からうろこがおちるような視察であった。何うと20年くらい研究し、試行錯誤を続けた結果であるというから納得した。</p> <p>現在、当漁協で行っている中間育成施設は、同様な施設規模でありながら2万4千個から2万8千個と福島の25%程度の収容量であり、水の使用料においては10倍以上である。</p> <p>特許使用料の問題もあるが、今後、当漁協の中間育成個数を増加させることができるのかを掘下げ検討し、飼育試験を実施するなどして今回学んだことを活かして、今後のアワビ稚貝の中間育成試験に取り組んでいきたい。</p> <div data-bbox="587 1391 1102 1776" data-label="Image"> </div>
備考	

### 3 (2) 青年等交流活動事業

#### ア 情報交換会の開催等

活動名	全国漁業士連絡会議及び全国青年女性交流大会への参加		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁業士会		
総事業費	156,960 円	うち助成額	132,960 円
目的	全国漁業士連絡会議に参加して他県の漁業士と情報交換するとともに全国青年女性漁業者交流大会に参加した他県の優良事例を学び地域の活性化の一助とする。		
活動内容	<p>1 全国漁業士連絡会議</p> <p>(1) 年月日：平成 31 年 2 月 27 日</p> <p>(2) 場 所：東京都（農林水産省）</p> <p>(3) 参加者：加賀修指導漁業士</p> <p>(4) 全国から 24 名の漁業士が参加し、意見交換が行われた。</p>  <p>「地域における漁業士の役割（活動）及びメリット」について各ブロック（東北・北海道ブロック、日本海ブロック、関東・東海ブロック、瀬戸内ブロック、九州ブロック）から報告があった。</p> <p>各地区とも様々な活動に取り組んでいる状況が報告される一方で、活動へ参加する漁業士が固定化していること。漁業士の資質向上を図るためにスマホアプリの「LINE」を使って情報共有を図る取り組みをしているところもあった。</p> <p>関東以南の漁業士からは、漁業士になったことによるメリットを設けるべきではないとの意見が寄せられた。</p> <p>2 全国青年女性漁業者交流大会</p> <p>(1) 年月日：平成 31 年 2 月 28 日～3 月 1 日</p> <p>(2) 場 所：東京都（ホテルグランドアーク半蔵門）</p> <p>(3) 参加者：加賀修指導漁業士、藤田敦指導漁業士、大和田康彦指導漁業士</p> <p>(4) 全国から 37 課題の発表があった。</p> <p>岩手県からは広田湾漁協青壮年部気仙支部の大坂哲也さんが「広田湾エゾイシカゲガイ養殖の歩み～新・気仙の黄金物語～」と題して第 1 分科会で発表し、釜石湾漁協白浜浦女性部の佐々木淳子さんが「G活動で浜の元気を取り戻そう～白浜浦女性部の復興への取組～」と題し第 4 分科会で発表した。</p> <p>大坂哲也さんは水産庁長官賞を佐々木淳子さんは農林中央金庫理事長賞をそれぞれ受賞した。</p> 		
備考			

活動名	第24回全国青年・女性漁業者交流大会参加		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁協女性部連絡協議会		
総事業費	129,800 円	うち助成額	114,800 円
目的	全国の青年・女性漁業者の日頃の研究・実践活動発表を聴講することにより、部員の知識向上を図り活動の活性化に資することを目的とする。		
活動内容	<p>1 年月日 平成31年2月28日(木) ～ 3月1日(金)</p> <p>2 場所 東京都千代田区隼町1-1 ホテルグランドアーク半蔵門</p> <p>3 出席者 佐々木淳子(実績発表者・釜石湾漁協白浜浦女性部長) 盛合敏子(県漁協女性連会長・重茂漁協女性部長) 前川由美子(釜石湾漁協白浜浦女性部) 佐々木ふき子(釜石湾漁協白浜浦女性部)</p> <p>ほか 釜石湾漁協職員・岩手県信漁連職員</p> <p>4 大会内容 全国の青年・女性漁業者が一堂に会し、日頃の研究、実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させ水産業・漁村の発展と活性化に資することを目的にJF全漁連の主催により開催されているもので、全国で実施している漁業および加工・販売の実践や成果、魚食普及活動の事例等、今後の本県女性部活動の事業推進に大きく役立つものであった。</p> <p>なお、本県女性部代表として活動実績発表を行った釜石湾漁協白浜浦女性部は、第4分科会において農林中央金庫理事長賞を受賞した。</p>		
			
備考	概要は、いわて漁連情報 ぎょれん 2019年3月に掲載している。		



活動名	県北沿岸部漁協女性部との交流及び内陸部農協女性部等との交流		
実施主体 (協力機関)	釜石湾漁協白浜浦女性部		
総事業費	199,753円	うち助成額	199,753円
目的	<p>県内外で先進的な取り組みをしている女性グループと交流することで、白浜浦女性部員の自己研鑽を促し、今後の新たな組みの足掛かりとする。</p> <p>A) 県北沿岸部漁協女性部との交流を通じて、地域における女性部活動を学び釜石における街浜交流人口増の足掛かりとする。</p> <p>B) 内陸部農協等の異分野女性グループとの交流を通じて、魚介藻の調理方法伝授や新規開発商品の試食等により魚食普及を図る。</p> <p>このような交流活動を通して、当女性部オリジナル開発商品「わかめの芯ちゃん」の普及・拡販に努め、次期開発商品の試作品評価を頂戴する</p>		
活動内容	<p><b>A) 県北沿岸部漁協女性部との交流</b></p> <p>(1) 実施時期 平成30年6月17日 8時30分～12時30分</p> <p>(2) 場所 久慈市長内町 「二子朝市」及び「浜のかあちゃん食堂」</p> <p>(3) 参加者等 白浜浦女性部員9名 釜援隊1名 現地二子女性部8名の合計19名</p> <p>(4) 交流概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地視察 朝市は9時開始とのことで8時30分に朝市会場に到着。 すでに多くのお客様が行列を作り販売開始を待っていた。 二子女性部の皆さんは販売担当と隣接する「浜の母ちゃん食堂」の仕込み担当に分かれて活躍中。</li> <li>・意見交換会 二子女性部は現在33名、うち80歳以上が9名。月1回の朝市に焦点を絞り、浜の母ちゃん食堂担当、朝市販売担当、朝市販売商品加工に分けて20名程度が活動に参加しています。 女性部活動を支えるのは、周りからの「美味しいね、」という評価。白浜浦は月1回ペースで魚食普及活動(調理実習等)を実施していますが規模は小規模のため不特定多数から評価していただく機会が少ない。</li> </ul>		





**B) 内陸部農協女性部等との交流**

- (1) 実施時期 平成 30 年 8 月 19 日 12 時から 15 時
- (2) 場所 釜石市平田 8-75 「釜石湾漁協白浜浦コミュニティ番屋」
- (3) 参加者等 白浜浦女性部員 14 名 釜援隊 1 名  
花巻農業協同組合女性部花巻地域支部石鳥谷支部 20 名

**(4) 交流概要**

両女性部とも漁協、農協の組織の一部であるが、婦人消防団を兼ねているところが共通項。

活動内容

白浜浦女性部から 2017 年 5 月 8 日に発生した尾崎半島の山火事における女性部の炊き出しの様子を発表。質疑では、緊迫する消火作業の中で炊き出しする女性部を称賛する声と、撤退するタイミングの難しさに悩む女性部長の苦悩が参加者に伝わりました。

浜の幸尽くしの昼食後の歓談では、同じ一次産業に従事する主人を持つ嫁の立場としての会話が多くみられ、担い手・後継者不足、機械化による省力化、生産物の単価低迷の話や、ホタテやカキの貝殻から肥料を作る話など、あちこちで海山共通の話題で盛り上がった。

反省点として、石鳥谷さんの発表も聞きたかった。漁港を見せるなり船に乗せたかった。との意見が出た。





備考

活動名	宮古地区未婚漁業者等交流会		
実施主体 (協力機関)	宮古市漁業就業者育成協議会		
総事業費	229,432 円	うち助成額	200,000 円
目的	未婚漁業者の婚活の機会として交流会を実施し、未婚漁業者の結婚対策を行い、漁業経営体維持の一助とする。		
活動内容	<p>宮古市漁業者交流事業「浜コン」の開催</p> <p>1 日時 平成 31 年 2 月 17 日 (日) 13 時から 16 時 15 分</p> <p>2 場所 岩手県宮古市 (浄土ヶ浜レストハウス)</p> <p>3 参加者 宮古漁業協同組合、重茂漁業協同組合、田老町漁業協同組合 (以下「3 漁協」という。) 男性未婚漁業者 12 名、県内の未婚女性 12 名</p> <p>4 活動要旨 宮古市漁業就業者育成協議会が事務局となり、宮古地区の未婚漁業者の配偶者対策として、コミュニティーエフエム放送局の協力を得て FM 放送や SNS 等を活用して参加者を募り、3 漁協管内の独身漁業者 12 名と県内の未婚女性 12 名を招いて開催しました。</p> <p>当日は参加者の自己紹介と 1 対 1 のトークタイムを行い、その後、カキ養殖漁業者の指導の下、カキの殻むき体験を行いました。</p> <p>その後、会食を行い、途中、漁師の力自慢コンテストとして参加した漁師の皆さんで力比べをしました。</p> <p>最後にフリータイムを経て、気に入った異性をカードに記入してもらい発表するカップリングを実施した結果、残念ながらカップルの成立はありませんでしたが、参加者の多くは別途設定した二次会に参加し、連絡先を交換するなど一層交流を深めていました。</p> <p>終了後、参加者に何うと、「楽しかった。また参加したい。」といった感想をいただき、参加者が楽しみながら婚活を行えるイベントであったと思います。</p>		
備考			



活動名	東京都内での下閉伊地区各単協特産品の販売促進活動を通じた都市間・漁村間交流		
実施主体 (協力機関)	JF 岩手漁青連下閉伊支部		
総事業費	106,800 円	うち助成額	80,000 円
目的	東京都内での販売促進活動を通じて、消費者と交流することで消費地ニーズを把握し、各地域特産品の特徴を活かしつつ、各単協が連携し消費地向けに販売していく方法を検討する。また、支部内で活動結果の報告会を開催することで、支部会員の資質向上を図ることを目的とする。		
活動内容	<p><b>【販売促進活動】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開催時期 平成 30 年 8 月 24 日から 26 日</li> <li>開催場所 東京都品川区 (戸越銀座祭り)</li> <li>参加者 支部会員 2 名</li> <li>活動内容 8 月 25 日から 26 日に東京都品川区にて開催された「戸越銀座祭り」において、宮古漁協のホタテと田老町漁協のわかめ、ふのりを組み合わせた「特製冷やしラーメン」を販売し、下閉伊地区の海産物の PR を行った。 結果、「特製冷やしラーメン」は 2 日間で 167 食を売り上げた。 販売した製品の感想や、都市部の消費者の海産物の産地への意識等についてアンケート調査を行ったところ、今回販売した製品に対しては概ね好評な意見が多く、海産物の産地を意識し、岩手県産の海産物に対して購入意欲を示す回答者も多かった。</li> </ol> <p><b>【結果報告会】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開催時期 平成 30 年 9 月 4 日</li> <li>開催場所 岩手県漁連北部支所 (JF 岩手漁青連下閉伊支部通常総会)</li> <li>対象者 全支部会員 (うち出席者 13 名)</li> <li>概要 JF 漁青連下閉伊支部平成 30 年度通常総会において、販売促進活動やアンケート調査により得た情報を報告し、支部会員の資質向上のために情報を共有した。</li> </ol>		
備考			




活動名	女性部による都市・漁村間交流活動		
実施主体 (協力機関)	田野畑村漁協 田野畑浜女性部		
総事業費	95,040 円	うち助成額	95,040 円
目的	都市・漁村間交流の活動として、県内外で開催される各種イベント等に参加し、販売促進活動を実施することで、田野畑村の水産物の PR 及び女性部の活性化を図る。		
活動内容	<p>県内外で開催される各種イベント等に参加し、田野畑浜女性部オリジナルポロシャツや、オリジナルのぼりを活用して田野畑村の水産物や女性部が生産する加工品等の販売を行い、田野畑村の水産物等の PR と女性部活動の活発化を図った。</p> <p>1 たのはたフェア</p> <p>(1) 実施時期：平成 31 年 1 月 26 日（土）～28 日（月）の 3 日間</p> <p>(2) 実施場所：東京都銀座 いわて銀河プラザ</p> <p>(3) 参加者：3 名</p> <p>(4) 活動内容 東京都銀座にある「いわて銀河プラザ」において「たのはたフェア」を開催し、その中で岩手県岩泉町・田野畑村水産業再生委員会事業で製造した加工品等の試食と田野畑村の特産品の販売を行った。</p>  <p>2 平成 30 年度岩手県水産加工品コンクール</p> <p>(1) 実施時期：平成 31 年 2 月 1 日（金）</p> <p>(2) 実施場所：岩手県盛岡市</p> <p>(3) 参加者：1 名</p> <p>(4) 活動内容 盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡」で開催された「平成 30 年度復興シーフードショーIWATE」に参加し「平成 30 年度岩手県水産加工品コンクール」に岩手県岩泉町・田野畑村水産業再生委員会事業で製造したショッコ加工品「出世くん」を展示し商品の PR を行った。</p> 		
備考	※ 当初予定していた「深谷市産業祭（10 月）」は村と出展について調整した結果、今年度は見合わせる事になった。また、「真鱈まつり（1 月 27 日（日）」は、東京都銀座での「たのはたフェア」と日程が重複したため不参加となった。		

イ 地区活動実績発表大会

活動名	九戸地区漁村青年活動実績発表大会		
実施主体 (協力機関)	J F 漁青連九戸支部		
総事業費	75,066 円	うち助成額	70,000 円
目的	活力ある漁村づくりに向け、組織活動の充実と改善のため情報交換を積極的に推進し、会員相互の高揚を図った。		
活動内容	<p>九戸地区漁村青年活動実績発表大会の開催</p> <p>1 時 期 平成 30 年 6 月 21 日(木) 15 : 40~17 : 20</p> <p>2 場 所 久慈グランドホテル</p> <p>3 参加者 77 名 支部会員、県、女性部、漁協関係者等</p> <p>4 内 容</p> <p>(1) 活動実績発表</p> <p>①「ナマコ資源の有効活用」～あわび中間育成施設を利用したナマコ畜養～ (小子内漁業研究会 中村光彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会では平成 19～22 年にナマコ生息調査を行い、生息適地を把握した。平成 28 年に採捕ナマコを試験販売したら 150 g 以下は引取ってくれなかった。</li> <li>・ナマコは、アワビの糞も餌にすることから漁協アワビ中間育成場の水槽清掃の軽減も兼ねて 150 g 以下のナマコ 200 本弱を 4 水槽に分けて畜養試験を行った。</li> <li>・その結果、平成 29 年 5 月 23 日出荷時には、平均 178 g 188 本、95 g が 8 本となり 84,000 円となった。</li> <li>・平成 29 年 10 月 18 日に 150 g 以下 314 本と大サイズ 70 本で畜養試験し、平成 30 年 5 月 29 日測定、平均 162.5 g と 1.8 倍に成長し、生残率は 99% であり 120,000 円となった。</li> <li>・ナマコ畜養の利点は、アワビに影響を与えず、生残率も 100% に近く、水槽掃除も軽減され、施設の有効活用、商品価値向上等一石三鳥であった。</li> </ul> <p>②「鹿糠浜女性部の活動について」(種市漁協鹿糠浜女性部 磯崎敏子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部の構成は 23 名、部長 1 名、副部長 3 名、他 5 名の役員で運営している。</li> <li>・活動内容は、海浜清掃・空き缶の回収・イベントなどでの海産物の販売。合成洗剤追放運動の実施し、わかしお石鹸の使用が根付いている。</li> <li>・東日本大震災の折には、野田村へ支援物資を持ちお見舞に出かけた。</li> <li>・現在は、イベントでの販売に力を入れているが、「無理をせず仲良く」を合言葉に、活動を継続していきたい。</li> </ul>		




<p>活動内容</p>	<p>(2) 各研究会活動報告</p> <p>①下安家漁業研究会(内野澤正勝)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カキシングルシード養殖試験の継続。</li> <li>・第23回全国青年・女性漁業者交流大会で全漁連会長賞の受賞。</li> </ul> <p>②大尻漁業研究会(木下清隆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大尻生産部と協力しウニ・アワビへの給餌活動。</li> <li>・久慈湾でのコンブ・ワカメ養殖の他、カキシングルシード、ホヤ養殖試験などに取り組む。</li> </ul> <p>③野田漁友会(見年代南瑠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホヤの人口種苗試験並びにカキシングルシード養殖試験の継続。</li> <li>・カキシングルシード養殖先進地、北海道へ6月に研修視察の実施。</li> <li>・荒海団活動、「荒海はたて・カキ」取扱店への販路拡大活動の実施。</li> </ul> <p>④二子漁業研究会(梶秀明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二子生産部と協力しホヤ並びにカキシングルシード養殖試験を継続している。</li> <li>・久慈市観光課主催のウニむき体験学習への協力、二子朝市への参加協力。</li> </ul> <p>⑤宿戸漁業研究会(吹切秋則)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝市、地元の神社で焼き物・ウニ・ホヤなどを販売している。</li> <li>・毎年、岩手県青年・女性交流大会に積極的に参加している。</li> </ul> <p>(3) 研修 「ホタテガイ等の貝毒について」 (水産技術センター主任専門研究員 内記公明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタテガイ等二枚貝の貝毒発生原因や規制値、モニタリング体制等の紹介</li> <li>・震災以降、麻痺性貝毒が高毒化・広域化の傾向にある。</li> <li>・現在、貝毒プランクトン採水方法の改良について調整中。また、簡易検査技術開発や減衰比較試験に取り組んでいる。</li> </ul> 
<p>備考</p>	

(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

活動名	岩手県漁業士会研修会・情報交換会		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁業士会		
総事業費	348,716円	うち助成額	100,000円
目的	漁業士の資質向上		
活動内容	<p>1 実施時期：平成30年6月1日（金）</p> <p>2 実施場所：盛岡グランドホテル（盛岡市）</p> <p>3 参加者： 岩手県漁業士会会員、関係漁協職員、関係行政職員（総勢47名）</p> <p>4 内容 研修会及び情報交換会を開催した</p> <p>(1) 研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各支部の活動報告</li> <li>・講演 演題 「海洋環境の変動と漁業資源の変動について」 講師 後藤友明准教授（岩手大学農学部）</li> <li>・情報提供 いわて水産アカデミー（仮称）に係る受入漁業者が行う研修内容・受入条件等について岩手県庁水産振興課伊藤主査から説明があった。</li> </ul> <p>(2) 情報交換会</p>		
			
			
備考	概要は、漁業士会報 第25号に掲載している。		



活動名	宮城県漁業士会北部支部・岩手県漁業士会大船渡支部交流会		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁業士会大船渡支部		
総事業費	78,994円	うち助成額	78,994円
目的	県境に隣接する「岩手県漁業士会大船渡支部」と「宮城県漁業士会北部支部」の相互の情報交換を通じて支部員の資質向上を図るとともに、両地域の水産業の持続的な発展に役立てる。		
活動内容	<p>1 実施時期：平成30年9月4日</p> <p>2 実施場所：岩手県陸前高田市（キャピタルホテル1000）</p> <p>3 参加者：</p> <p>岩手県漁業士会大船渡支部 10人（他1名欠席）</p> <p>宮城県漁業士会北部支部 13人（他2名欠席）</p> <p>東北区水産研究所2人、岩手県水産技術センター1人</p> <p>宮城県気仙沼地方振興事務所5人 気仙沼水産試験場1人</p> <p>岩手県大船渡水産振興センター4人、陸前高田市1名、大船渡市1人</p> <p>4 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の交流会は講演会形式とし、残りの時間で意見交換を行うこととした。</li> </ul> <p>講演1</p> <p>「東日本大震災でアワビ資源はどうなった？ーアワビ漁業の復興に向けてー」</p> <p>東北区水産研究所資源環境部 高見秀輝 生産環境グループ長</p> <p>講演2</p> <p>「秋季におけるワカメ養殖場への栄養塩供給予測」</p> <p>東北区水産研究所資源環境部 海洋動態グループ 笥茂徳 主任研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換では、大船渡支部佐々木淳指導漁業士と北部支部最知指導漁業士が座長を務めて、アワビ放流方法や貝毒、ホタテ採苗状況の話題が出された。両県の漁業士の活発な意見交換のほか、適宜水研の講師2名が科学的根拠をもとに助言を行うなど充実した内容であった。</li> </ul>		
備考	 		

活動名	岩手県漁業士会久慈支部と青森県三八漁業士会との交流会		
実施主体 (協力機関)	岩手県漁業士会久慈支部		
総事業費	77,600 円	うち助成額	77,600 円
目的	隣り合った地域で活動している青森県三八漁業士会と課題等について情報交換し、漁業技術の向上及び沿岸漁業の振興を図ることを目的とし交流会を開催する。		
活動内容	<p>1 時 期 平成 31 年 2 月 20 日～21 日</p> <p>2 場 所 青森県三沢市及び上北郡おいらせ町</p> <p>3 参加者 漁業士、県、漁協、市町村等の関係者</p> <p>4 内 容</p> <p>(1) 交流会</p> <p>①漁業士会活動報告交流会</p> <p>ア 青森県報告：～あおもり漁業の魅力体験事業～新規就業者確保の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸市内の定置網の雇用情報を全国漁業就業者確保育成センターへ登録したところ、宮崎県の 30 代男性から就業相談があった。体験乗船を経て市内の空き家へ居住し、「賓陽塾」で後継者育成研修も受講した。ところが、父親が病気となり長男として実家に連れ戻される形で離職した。</li> <li>・平成 30 度から青森県事業を活用し、漁業インターンシップ受入機関として登録をしたところ、雫石町の男性が申し込みをし現在も就業している。</li> <li>・若手就業希望者の受け入れには想像よりも多くの手間がかかるため、十分なフォローを続けることで就業に繋げる必要がある。</li> </ul> <p>イ 岩手県報告：採介藻漁業における水揚げ向上にかかる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久慈市周辺では、アワビ種苗の生残を高めるため容器放流を行っている。</li> <li>・平成 29 年度に 1 漁協、平成 30 年度に 2 漁協が容器放流試験を実施したが、稚貝の多くが容器に残り上手くいかない時があった。そのため、底質及び水深の異なる 3 箇所の漁場で比較試験を行ったところ、残存率に違いが見られ、底質、波当たりの強さ、容器の横転などを踏まえた放流場所の選定が重要と考えられる。</li> <li>・岩手県ではワカメフリー種苗の普及に取り組んでいる。平成 29 年度に久慈市周辺の 4 漁場で養殖試験を行い、沖合漁場が最も成長が良く、養殖ロープを岩盤に沿わせて設置した漁場ではほとんど成長していなかった。</li> </ul>		



② 両県漁業士等の意見交換

- ・アワビの高値、シャーベットアイスの利用状況、たこカゴ用脱出リングについて情報交換が行われた。



(2) 研修視察

- ・奥入瀬川鮭鱒増殖漁業協同組合旧ふ化場と切田ふ化場を視察。
- ・旧ふ化場は、10列×2段のサケ稚魚飼育槽と少数のイワナ飼育槽があり、水深が極端に浅い（水深30cm程）中でサケ稚魚を飼育していた。水量が足りないため、水深を浅くしているとのことであった。
- ・切田ふ化場は、約20m×46列のサケ稚魚飼育槽があり、ほとんど全ての池が稼働していた。排水溝周辺に防鳥ネットを張り巡らせ稚魚を鳥類から保護している様子であった。



活動内容

備考

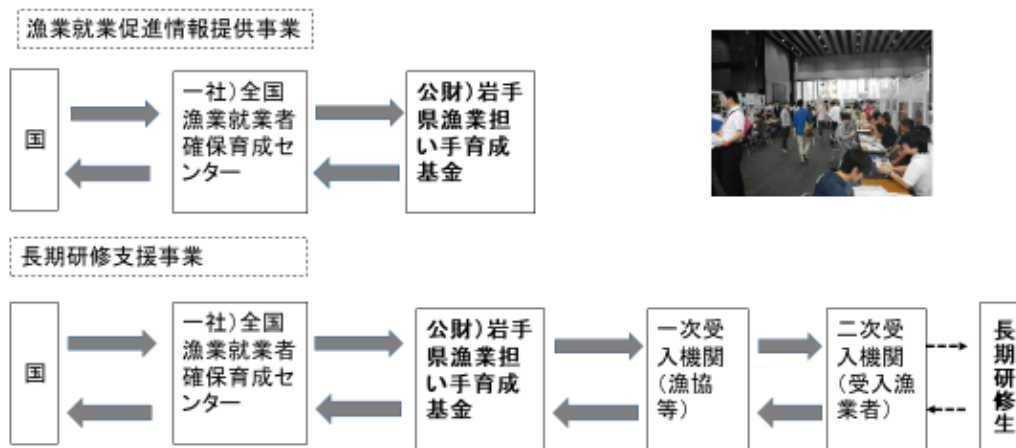
#### 4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業（ゼロ予算）

地区	開催月日・場所	参加人数	議題等
大船渡	H31年1月22日 キャピタルホテル 1000（陸前高田 市）	36名	<p>※岩手県漁業士会大船渡支部と共同開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワカメの養殖方法 水産技術センター佐々木専門研究員</li> <li>・マコンブ藻場の現状と磯焼けについて 東北水研 八谷主任研究員</li> <li>・海藻群落の変化とエゾアワビの移動に関して 東北水研 松本研究員</li> <li>・台湾視察研修を終えて 岩手県漁業士会大船渡支部</li> </ul>
釜石	未開催		
宮古	H30年7月25日 鍬ヶ崎番屋2Fセ ミナーハウス（宮 古市）	24名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度岩手県漁業担い手育成基金事業の活動実績について</li> <li>・平成30年度岩手県漁業担い手育成基金事業の活動計画について</li> <li>・各市町村の漁業就業者育成協議会の活動状況について</li> <li>・漁業就業支援フェア2018出展レポートについて</li> <li>・仮称・いわて水産アカデミーについて</li> </ul>
久慈	H31年3月19日 久慈市漁協 中会議室	23人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度岩手県漁業担い手育成基金事業の実施状況について</li> <li>・平成31年度岩手県漁業担い手育成基金事業の申請状況について</li> <li>・いわて水産アカデミーについて</li> <li>・明日の浜人応援事業について</li> <li>・県北広域振興局管内の漁業担い手協議会について</li> </ul>

## 5 漁業人材育成総合支援事業（国庫予算）

当基金が、国の漁業人材育成総合支援事業の実施機関として、全国漁業就業者フェアへの出展支援及び長期研修支援事業として指導者への指導費等の支援を実施した。

### 漁業人材育成総合支援事業の支援スキーム

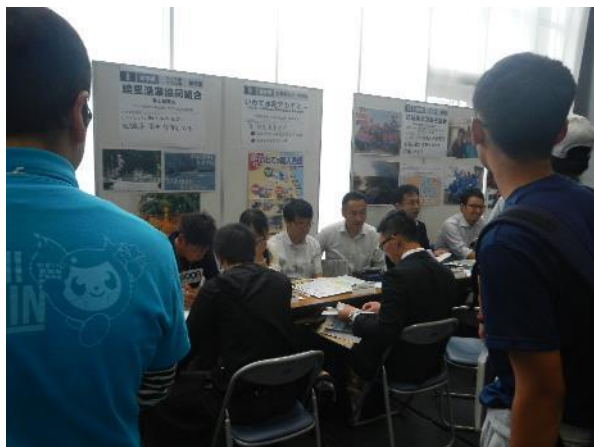


#### (1) 漁業就業促進情報提供事業

全国漁業就業支援フェア 2018（東京都）の本県からの出展団体取りまとめを行うとともに、「いわて水産アカデミー」の構成員として参加し、岩手の漁業やアカデミーの紹介、漁業就業相談に応じた。

#### 全国漁業就業支援フェア 2018（東京都）の概要

主催者 一般社団法人全国漁業就業者確保育成センター  
 開催月日 平成 30 年 7 月 7 日（土）12：30～16：30  
 開催場所 秋葉原 UDX アキバ・スクエア  
 出展団体 80 団体、来場者 421 名  
 うち、県内出展団体 7 団体、相談来場者 延 72 名



## (2) 長期研修支援事業

漁業就業を目指す研修生の受入機関を決定し、受入機関の指導者に対して指導費等の支援を行った。

29年度からの継続 1件

漁船漁業 1名 H29.11月～H30.9月（離職、他県で漁業就業）

30年度新規 5件

定置漁業 1名 H30.5月～H31.1月（就業継続）

養殖・漁船漁業 1名 H30.4月～H31.3月（就業継続）

漁船漁業 1名 H30.8月～H30.11月（就業継続）

漁船漁業 1名 H30.8月～H30.12月（就業継続）

養殖漁業 1名 H30.4月～H31.3月（就業継続）

## (参考) その他の就業フェアへの参加実績

名称	主催者	開催月日	開催場所
いわてとワタシゴト展	ジョブカフェいわて	8月10日	いわて県民交流センターアイーナ
いわて就職面接会IV	公財) ふるさといわて定住財団 ほか	12月15日	岩手産業文化センターアピオ